

# 市内遺跡

平成19年度市内遺跡発掘調査事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

延岡市教育委員会

## 序 文

本書は、延岡市教育委員会が国県補助を受け実施した市内遺跡発掘調査事業の調査報告書です。

延岡市は宮崎県北部に位置し、五ヶ瀬川水系の水力資源を利用した県内最大の電気化学工業集積地となっています。また、近世延岡藩の城下町としても繁栄を遂げ、教育文化・産業経済の牽引役を担っています。

近年は、市民参加による「のべおか天下一薪能」、「城山かぐらまつり」などの開催はじめ、九州保健福祉大学の開学や国道10号延岡道路及び国道218号北方延岡道路の部分開通など大きな変革を迎えています。さらに、合併特例法に基づく旧三町との合併によって、市有面積として九州内で二番目の規模をもつ都市となり、伝承芸能や農林水産資源などが融合する活気あるまちづくりに歩みだしているところです。

本書が文化財保護への理解を深める一助として、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にあたり宮崎県教育委員会をはじめ、地権者並びに開発事業関係者のご協力をいただきましたことに対して、深く感謝いたします。

平成20年3月

延岡市教育委員会  
教育長 町田訓久

## 例　言

1. 本書は、各種開発事業に伴い、延岡市教育委員会が国・県補助を受けて平成19年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 本年度は、旧延岡市内11箇所及び旧北方町内7箇所の試掘・確認調査を実施した。
3. 昨年度調査した、延岡城内遺跡（第16次）、行膳町茂須野地点、上多々良遺跡（第5次）、曾木原（第5次）及び昨年度調査した（第3次）は本書に掲載した。
4. 西階横穴の名称について、詳細分布調査時の遺跡名では一帯を丸塚山古墳と称していたが、横穴墓が検出されていることからH16年度報告に準じた。
5. 年度末に調査した上多々良遺跡（第7次—2区）、延岡城内遺跡（第18次）、日の出町遺跡（第2次）、東原遺跡（第3次）、上田下遺跡（第2次）は次年度に報告する。
6. 本書に使用した遺構・遺物の実測・トレイス・図面作成は、小野信彦、山田聰、尾方農一、高浦哲、敷石サヨ子、山本敬子、藤本千鳥、森有美、小中谷知世、佐藤きみゑ、橋木継美が行った。
7. 西階横穴2の発掘現場において、平成19年7月2日に県立延岡商業高校生4名による職場研修を実施した。
8. 現場及び遺物の写真撮影は各調査担当者が行った。
9. 方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海拔高である。
10. 出土遺物は、延岡市教育委員会にて保管しており、今後、展示公開の予定である。
11. 本書の執筆は各担当者が行い、編集は山田があたった。



Fig. 1 延岡市位置図

# 本文目次

## 第1章 はじめに

|        |   |         |   |
|--------|---|---------|---|
| 1.はじめに | 1 | 2.調査の概要 | 1 |
|--------|---|---------|---|

## 第2章 调査の記録

|                  |    |                     |    |
|------------------|----|---------------------|----|
| 1. 平原町 1丁目野中田地点  | 5  | 10. 上多々良遺跡 (第5次)    | 43 |
| 2. 延岡城内遺跡 (第17次) | 7  | 11. 上多々良遺跡 (第7次 1次) | 46 |
| 3. 西陽橋六2         | 9  | 12. 霧の木第1地点         | 47 |
| 4. 基町城下町道路 (第2次) | 21 | 13. 霧の木第2地点         | 48 |
| 5. 大武町志多留地点      | 27 | 14. 上崎地区遺跡 (第9次)    | 49 |
| 6. 爱宕山第2地点       | 31 | 15. 駒小屋道路 (第1次)     | 50 |
| 7. 古城町 4丁目植ノ下地点  | 33 | 16. 東原遺跡 (第2次)      | 51 |
| 8. 延岡城内遺跡 (第16次) | 35 | 17. 肴木原遺跡 (第3・5次)   | 52 |
| 9. 行橋町佐須野野地点     | 41 |                     |    |

報告書抄録

## 挿図目次

|  |    |   |    |
|--|----|---|----|
| Fig. 1 延岡市伝置図                                |    | Fig. 29 爱宕山第2地点土層断面図 (1/80)   | 32 |
| Fig. 2 平成19年度市内遺跡発掘調査地分布図 (旧延岡市・1/80,000)    | 3  | Fig. 30 古城町4丁目植ノ下地点位図 (1/15,000)  | 33 |
| Fig. 3 平成19年度市内遺跡発掘調査地分布図 (旧北方町・1/40,000)    | 4  | Fig. 31 古城町4丁目植ノ下地点調査区配図 (1/2,500)                                      | 33 |
| Fig. 4 平原町1丁目野中田地点位置図 (1/15,000)             | 5  | Fig. 32 占原町4丁目植ノ下地点土層断面図 (1/80)   | 34 |
| Fig. 5 平原町1丁目野中田地点位置図 (1/2,500)              | 5  | Fig. 33 延岡城内遺跡 (第16次) 付図 (1/15,000)                                     | 35 |
| Fig. 6 平原町1丁目野中田地点土層断面図 (1/80)               | 6  | Fig. 34 延岡城内遺跡 (第16次) 調査区配図 (1/2,500)                                   | 35 |
| Fig. 7 延岡城内遺跡 (第17次) 位置図 (1/15,000)          | 7  | Fig. 35 延岡城内遺跡 (第16次) 土解剖面図 (1/80)                                      | 36 |
| Fig. 8 延岡城内遺跡 (第17次) 調査区配図 (1/2,500)         | 7  | Fig. 36 延岡城内遺跡 (第16次) 出土遺物実測図 1 (1/3・1/4)                               | 37 |
| Fig. 9 延岡城内遺跡 (第17次) トレレンチ・土解剖面図 (1/80)      | 7  | Fig. 37 延岡城内遺跡 (第16次) 出土遺物実測図 2 (1/3)                                   | 38 |
| Fig. 10 西陽橋六2号配置図 (1/15,000)                 | 9  | Fig. 38 基町城内遺跡 (第16次) 出土遺物実測図 3 (1/3)                                   | 39 |
| Fig. 11 西陽橋六2号配置図 (1/2,500)                  | 9  | Fig. 39 行橋町茂原野野地位置図 (1/15,000)  | 41 |
| Fig. 12 西陽橋六2号配置分布図 (1/5,000)                | 10 | Fig. 40 行橋町茂原野野地点溝跡区配図 (1/2,500)  | 41 |
| Fig. 13 西陽橋六2号溝跡及び埋蔵配図 (1/500)               | 11 | Fig. 41 行橋町茂原野野地土層断面図 (1/80)  | 42 |
| Fig. 14 西陽橋六9号遺構実測図 (1/40)                   | 13 | Fig. 42 上多々良遺跡 (第5次) 調査区位置図及び近隣遺跡分布図 (1/15,000)                         | 43 |
| Fig. 15 西陽橋六10号遺構実測図 (1/40)                  | 13 | Fig. 43 上多々良遺跡 (第5次) 1区調査区配図 (1/1,000)                                  | 44 |
| Fig. 16 西陽橋六9号 出土遺物実測図 (1/3)                 | 14 | Fig. 44 上多々良遺跡 (第5次) 2区解剖区配図 (1/4,000)                                  | 44 |
| Fig. 17 延岡城下町道路 (第2次) 位置図 (1/15,000)         | 21 | Fig. 45 上多々良遺跡 (第7次・1区) 位置図 (1/15,000)                                  | 46 |
| Fig. 18 延岡城下町道路 (第2次) 調査区配図 (1/2,500)        | 21 | Fig. 46 上多々良遺跡 (第7次・1区) 調査区配図 (1/2,500)                                 | 46 |
| Fig. 19 延岡城下町道路 (第2次) 土解剖面図 (1/80)           | 22 | Fig. 47 霧の木第1地点位置図 (1/5,000)  | 47 |
| Fig. 20 延岡城下町道路 (第2次) 道構・土層断面図 (2トレレンチ・1/80) | 23 | Fig. 48 霧の木第2地点位置図 (1/5,000)  | 48 |
| Fig. 21 延岡城下町道路 (第2次) 出土遺物実測図 1 (1/3)        | 24 | Fig. 49 上崎地区遺跡 (第9次) 位置図 (1/15,000)                                     | 49 |
| Fig. 22 延岡城下町道路 (第2次) 出土遺物実測図 2 (1/4)        | 25 | Fig. 50 鮎小原遺跡 (第1次) 位置図 (1/5,000)                                       | 50 |
| Fig. 23 大武町志多留地点位置図 (1/15,000)               | 27 | Fig. 51 東原遺跡 (第2次) 位置図 (1/5,000)  | 51 |
| Fig. 24 大武町志多留地点調査区配図 (1/2,500)              | 27 | Fig. 52 鮎木原遺跡 (第3・第5次) 道構配図 (1/200)及び升七塚古墳 (1/40)                       | 53 |
| Fig. 25 大武町志多留地点トレレンチ・土層断面図 (1/40)           | 28 | Fig. 53 鮎木原遺跡 (第3・第5次) 上層断面図 (1/40)                                     | 54 |
| Fig. 26 大武町志多留地点出土遺物実測図 (1/3・2/3)            | 29 | Fig. 54 鮎木原遺跡 (第3・第5次) 2号・3号 (1/40) 及び1号 (1/40) 及び1号 (1/40) 及び1号 (1/40) | 55 |
| Fig. 27 爰竹山第2地点位置図 (1/15,000)                | 31 | Fig. 55 鮎木原遺跡 (第3・第5次) 土層断面図 (1/3)                                      | 56 |
| Fig. 28 爰竹山第2地点位置図 (1/2,500)                 | 31 |   |    |

## 表 目 次

|                         |    |                           |    |
|-------------------------|----|---------------------------|----|
| 第1表 平成19年度山内面跡充船跡調査地一覧表 | 2  | 第6表 延岡城内遺跡(第16次)出土遺物調査表   | 40 |
| 第2表 西階横穴開拓調査一覧表         | 10 | 第7表 曽木原遺跡(第3次・第5次)出土遺物調査表 | 56 |
| 第3表 西階横穴1号山土遺物調査表       | 14 |                           |    |
| 第4表 延岡城下町遺跡(第2次)出土遺物調査表 | 26 |                           |    |
| 第5表 大武町志多留地点出土遺物調査表     | 30 |                           |    |

## 写 真 目 次

|                                     |    |                                  |    |
|-------------------------------------|----|----------------------------------|----|
| PL. 1 幸原町1丁目野中田地点 近景(南東から)          | 5  | PL. 43 大武町志多留地点 出土陶器             | 30 |
| PL. 2 幸原町1丁目野中田地点 上層断面              | 6  | PL. 44 大武町志多留地点 出土占线             | 30 |
| PL. 3 幸原町1丁目野中田地点 槌井状況1(南から)        | 6  | PL. 45 爰吉山第2地点 近景(北西から)          | 31 |
| PL. 4 幸原町1丁目野中田地点 槌井状況2(清水)         | 6  | PL. 46 爰吉山第2地点 痕状況               | 32 |
| PL. 5 幸原町1丁目野中田地点 調査状況3(北東)         | 6  | PL. 47 爰吉山第2地点 十字断面(北東壁)         | 32 |
| PL. 6 延岡城内遺跡(第17次) 近景(北東から)         | 8  | PL. 48 古城町4丁目植ノ下地点 近景(北東から)      | 33 |
| PL. 7 延岡城内遺跡(第17次) 近景(東から)          | 8  | PL. 49 古城町4丁目植ノ下地点 調査前           | 34 |
| PL. 8 延岡城内遺跡(第17次) 近景(西から)          | 8  | PL. 50 古城町4丁目植ノ下地点 調査状況          | 34 |
| PL. 9 越前城内遺跡(第17次) 調査状況             | 8  | PL. 51 古城町4丁目植ノ下地点 上層断面1(東壁)     | 34 |
| PL. 10 越前城内遺跡(第17次) 調査状況(トレンチ1)     | 8  | PL. 52 古城町4丁目植ノ下地点 土層断面2(南壁)     | 34 |
| PL. 11 越前城内遺跡(第17次) 調査状況(トレンチ1)     | 8  | PL. 53 越前城内遺跡(第16次) 調査前          | 35 |
| PL. 12 越前城内遺跡(第17次) 調査状況(トレンチ3)     | 8  | PL. 54 越前城内遺跡(第16次) 調査状況         | 36 |
| PL. 13 越前城内遺跡(第17次) 土層断面(トレンチ3)     | 8  | PL. 55 越前城内遺跡(第16次) 上層断面(西壁)     | 36 |
| PL. 14 西階横穴空堀(南西から・昭和43年頃)          | 9  | PL. 56 越前城内遺跡(第16次) 土層遺物1        | 40 |
| PL. 15 西階横穴9号 出土遺物1                 | 14 | PL. 57 越前城内遺跡(第16次) 出土遺物2        | 40 |
| PL. 16 西階横穴9号 山土遺物2                 | 14 | PL. 58 越前城内遺跡(第16次) 出土遺物3        | 40 |
| PL. 17 西階横穴 潛窓(東から)                 | 15 | PL. 59 越前城内遺跡(第16次) 出土遺物4        | 40 |
| PL. 18 西階横穴 潜窓(西から)                 | 15 | PL. 60 行徳町豊須野地点 近景(南東から)         | 41 |
| PL. 19 西階横穴 1トレンチ潜窓状況(東から)          | 15 | PL. 61 行徳町豊須野地点 調査状況1            | 42 |
| PL. 20 西階横穴9・10号 調査状況               | 15 | PL. 62 行徳町豊須野地点 調査状況2            | 42 |
| PL. 21 西階横穴10号 棚山状況                 | 15 | PL. 63 行徳町豊須野地点 上層断面(東壁)         | 42 |
| PL. 22 西階横穴1号 高森寺跡(1929)            | 16 | PL. 64 上多々良遺跡(第5次) 調査地航空写真       | 43 |
| PL. 23 西階横穴1号付近 現在(北西から)            | 16 | PL. 65 上多々良遺跡(第7次・1回) 近景(東から)    | 46 |
| PL. 24 西階横穴7号 潜窓の廻復状況               | 17 | PL. 66 那の木第1地点 調査風景(東から)         | 47 |
| PL. 25 西階横穴7号 石造雨室状況                | 17 | PL. 67 那の木第1地点 調査状況(東から)         | 47 |
| PL. 26 西階横穴11号 石造雨室状況               | 17 | PL. 68 那の木第2地点 調査風景(北東から)        | 48 |
| PL. 27 西階横穴9号 潜窓状況(新立姫庭高専高校職場跡)     | 18 | PL. 69 那の木第2地点 調査状況(北東から)        | 48 |
| PL. 28 西階横穴9号 棚山土状況                 | 19 | PL. 70 上崎地区遺跡(第9次) 調査風景(北東から)    | 49 |
| PL. 29 西階横穴9・10号 棚山状況               | 20 | PL. 71 上崎地区道路(第9次) 潜窓状況(北西から)    | 49 |
| PL. 30 西階横穴9・10号 上層保存状況             | 20 | PL. 72 豊小屋遺跡(第1次) 調査状況(東から)      | 50 |
| PL. 31 越前城下町遺跡(第2次) 調査前(南から)        | 21 | PL. 73 豊小屋遺跡(第1次) 調査状況(北東から)     | 50 |
| PL. 32 越前城下町遺跡(第2次) 出土検出状況(2トレンチ)   | 23 | PL. 74 東原遺跡(第2次) 潜窓状況(西から)       | 51 |
| PL. 33 越前城下町遺跡(第2次) 土層断面(2トレンチ・南から) | 23 | PL. 75 東原遺跡(第2次) 調査状況(東から)       | 51 |
| PL. 34 越前城下町遺跡(第2次) 被災遺構(2トレンチ・北から) | 23 | PL. 76 曽木原遺跡(第3次・第5次) 土層断面       | 54 |
| PL. 35 越前城下町遺跡(第2次) 保化系出土状況(3トレンチ)  | 26 | PL. 77 曽木原遺跡(第3次・第5次) 近景(南から)    | 57 |
| PL. 36 越前城下町遺跡(第2次) 出土遺物1           | 26 | PL. 78 曽木原遺跡(第3次・第5次) 1号墓(北西から)  | 57 |
| PL. 37 越前城下町遺跡(第2次) 出土遺物2           | 26 | PL. 79 曽木原遺跡(第3次・第5次) 2号(北東から)   | 57 |
| PL. 38 越前城下町遺跡(第2次) 出土遺物3           | 26 | PL. 80 曽木原遺跡(第3次・第5次) 1号上杭(南東から) | 57 |
| PL. 39 大武町志多留地点 近景(北から)             | 27 | PL. 81 曽木原遺跡(第3次・第5次) 2号上杭(東から)  | 57 |
| PL. 40 大武町志多留地点 トレンチ2(東から)          | 28 | PL. 82 曽木原遺跡(第3次・第5次) 1号墓(北西から)  | 57 |
| PL. 41 大武町志多留地点 黒縞墓(元後)             | 28 | PL. 83 曽木原遺跡(第3次・第5次) 出土遺物1      | 58 |
| PL. 42 大武町志多留地点 無縞墓(大武寺)            | 28 | PL. 84 曽木原遺跡(第3次・第5次) 出土遺物2      | 58 |

# 第Ⅰ章 はじめに

## 1. はじめに

延岡市は、宮崎県北部を流れる五ヶ瀬川水系の下流域に開けた都市で、豊富な水力資源を活用した電気化学工業集積地となっている。中心市街地には近世延岡藩主の居城となっていた延岡城跡が立地し、「千人殺し」に代表される石垣群や城門跡が残っており、近代都市景観と歴史的景観とが融合する街並みが形成されている。本市では、1990年代後半から歴史的遺産を活用した「内藤家旧蔵の能面展」、「のべおか天下一薪能」、「城山かぐらまつり」等のイベントを開催しており、毎年多くの観客を魅了し本市の地域興しの一翼を担っている。また、将来的に東九州自動車道や九州横断自動車道延岡線に格上げされる延岡道路や北方延岡道路の部分開通などのインフラ整備も進みつつある。さらに、行政機構においても昨年から2カ年連続の合併も進むなど大きな変革を迎える。

本年度における埋蔵文化財保護行政は、昨年に引き続き民間による大規模開発は減少傾向にあったものの、不動産鑑定に伴う「周知の埋蔵文化財包蔵地」の照会件数が多い状況にあった。一方、公共事業は農地保全整備事業や区画整理事業等のプロジェクトや道路改良関連の事業が継続して進められている。これらの開発事業と埋蔵文化財保護事業との調整資料を得るため、試掘・確認調査を実施した。

## 2. 調査の組織

|               |                       |         |
|---------------|-----------------------|---------|
| 調査主体          | 延岀市教育委員会              |         |
| 教 育 長         | 牧 野 哲 久 (～平成19年10月8日) |         |
| "             | 町 田 訓 久 (平成19年10月9日～) |         |
| 教 育 部 長       | 山 良 公 明               |         |
| 文 化 課 長       | 渡 邊 博 吏               |         |
| 文化課長補佐兼文化振興係長 | 大 島 紀世子               |         |
| 文化課文化財係長      | 赤 星 清 次               |         |
| 北 方 教 育 課 長   | 大 村 望                 |         |
| 北方教育課長補佐兼総務係長 | 鬼 塚 重 敏               |         |
| 北方教育課社会教育係長   | 春 田 清 子               |         |
| 庶務担当          | 文化課文化振興係主任主事          | 松 岡 直 了 |
|               | 北方教育課社会教育係主査          | 小 野 信 彦 |
| 調査担当          | 文化課文化財係主査             | 山 田 聰   |
|               | 文化課文化財係主任主事           | 尾 方 農 一 |
|               | 文化課文化財係主任主事           | 高 浦 哲   |
|               | 北方教育課社会教育係主査          | 小 野 信 彦 |

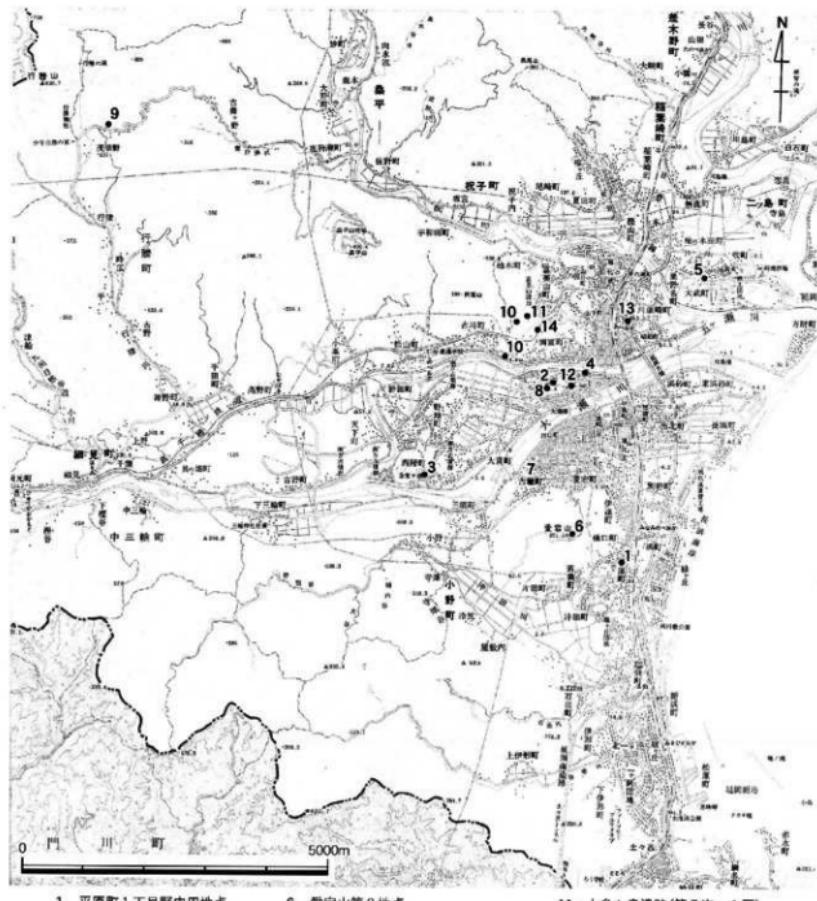
**発掘作業員** 安藤登美子、奥原真里子、小野 君子、小野 昭治、甲斐カズエ、甲斐カツキ、甲斐 龍男、甲斐 正子、甲斐 如高、金川 富子、川名 育子、酒井 清子、白石 良子、高橋 和代、高橋マサコ、中島 千賀、成川 清幸、林田 裕子、山本 千穂、伊東かずえ、甲斐 共子、甲斐美智代、長村 壽子、西口アヤ子、橋本 繁美、藤田キヌ工、藤田 律夫、藤本ミサヲ、村田 勝子、村田 義人、柳川ヒデ子、山本八重子

**資料整理** 敷石サヨ子、山本 敬子、藤本 千鳥、森 有美、小中谷知世、佐藤きみゑ、原田 洋子

なお、調査にあたって地権者の方々をはじめ関係機関及び開発業者などに多くの配慮を賜った。深く感謝する。

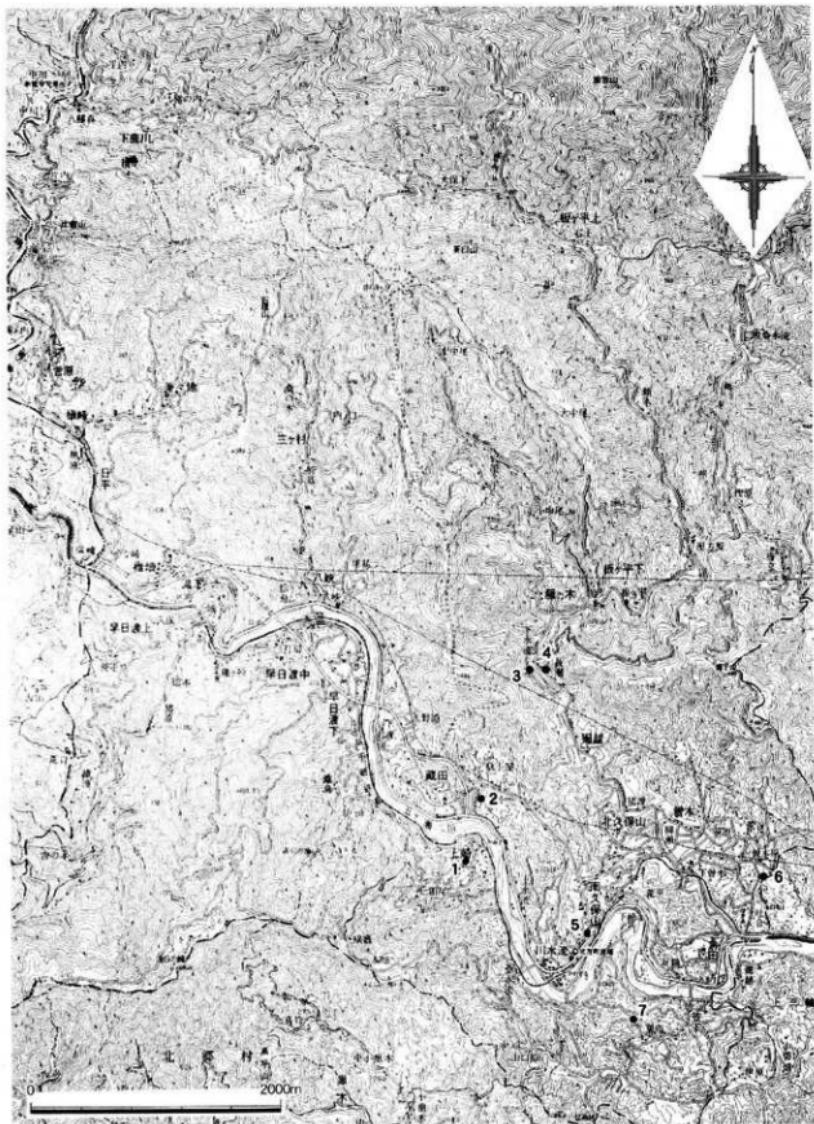
| 番号 | 遺跡名            | 所在地                   | 調査原因        | 調査面積     | 調査開始日    | 調査終了日    |
|----|----------------|-----------------------|-------------|----------|----------|----------|
| 1  | 平岡町1丁目野中田地点    | 延岡市平岡町1丁目856番地1外      | 宅地造成        | 15.0     | 20070522 | 20070522 |
| 2  | 延岡城内遺跡（第17次）   | 延岡市本町西878 2・79 2      | 宅地造成        | 120.0    | 20070530 | 20070601 |
| 3  | 西附横六2          | 延岡市西浦町1丁目4592番地外      | 直道復興        | 24.0     | 20070613 | 20070809 |
| 4  | 延岡城下町造跡（第2次）   | 延岡市北1丁目1-4            | マンション建設     | 24.6     | 20071105 | 20071122 |
| 5  | 大武町志多留地点       | 延岡市大武町179番地外          | 宅地造成        | 70.0     | 20071107 | 20071114 |
| 6  | 愛宕山第2地点        | 延岡市愛宕山6112-1          | 携帯電話無線基地局   | 5.5      | 20071211 | 20071220 |
| 7  | 上多ヶ良遺跡（第7次－1区） | 延岡市城富町798 4番地         | 土地区画整理事業    | 300.0    | 20071221 | 20071221 |
| 8  | 古城町4丁目橋ノ下地点    | 延岡市古城町4丁目141          | 共同住宅建設      | 8.2      | 20080129 | 20080206 |
| 9  | 上多ヶ良遺跡（第7次－2区） | 延岡西洞町                 | 土地区画整理事業    | 調査中      | 20080307 | 調査中      |
| 10 | 日の出町遺跡（第2次）    | 延岡市日の出町2丁目2番14-15     | 福祉施設建設      | 10.0     | 20080306 | 20080307 |
| 11 | 延岡城内遺跡（第18次）   | 延岡市本町西873番地1外         | 駐車場建設       | 調査中      | 20080310 | 調査中      |
| 12 | 藤の木第1地点        | 延岡市北方町藤の木西1103-1番地    | 携帯電話無線基地局   | 10.0     | 20070626 | 20070629 |
| 13 | 藤の木第2地点        | 延岡市北方町藤の木西1258・1259番地 | 携帯電話無線基地局   | 6.0      | 20071091 | 20071002 |
| 14 | 上崎地区遺跡（第9次）    | 延岡市北方町上崎658 1番地外      | 黒岩熊株式会社整備事業 | 16.0     | 20070510 | 20070510 |
| 15 | 駒小池遺跡（第1次）     | 延岡市北方町駒小池             | 水兼無道跡       | 30.0     | 20080118 | 20080125 |
| 16 | 東原遺跡（第2次）      | 延岡市北方町川水郷6099-5       | 市道改良        | 8.0      | 20080212 | 20080214 |
| 17 | 東原遺跡（第3次）      | 延岡市北方町川水郷60966-3      | 宅地造成        | 5.0      | 20080215 | 20080219 |
| 18 | 上田下遺跡（第2次）     | 延岡市北方町笠下寅             | 最終分塊造成      | 20080310 | 20080328 |          |

第1表 平成19年度市内遺跡発掘調査地一覧表



- |                  |                     |                    |
|------------------|---------------------|--------------------|
| 1. 平原町 1 丁目野中田地点 | 6. 爰宕山第2地点          | 11. 上多々良遺跡(第7次-1区) |
| 2. 延岡城内遺跡(第17次)  | 7. 古城町 4 丁目権ノ下地点    | 12. 延岡城内遺跡(第18次)   |
| 3. 西隣横穴2         | 8. 延岡城内遺跡(第16次・H18) | 13. 日の出町遺跡(第2次)    |
| 4. 延岡城下町遺跡(第2次)  | 9. 行慶町須須野地点(H18)    | 14. 上多々良遺跡(第7次-2区) |
| 5. 大武町志多留地点      | 10. 上多々良遺跡(第5次・H18) |                    |

Fig. 2 平成19年度市内遺跡発掘調査分布図（旧延岡市・1/80,000）



- 1.上原地区遺跡(第9次) 2.駄小屋遺跡(第1次) 3.麻の木第1地点 4.藤の木第2地点 5.東原遺跡(第2・3次)  
6.曾木原遺跡(第3・5次 H17・18) 7.上田下遺跡(第2次)

Fig. 3 平成19年度市内遺跡発掘調査分布図 (旧北方町・1/40,000)

## 第2章 調査の記録

### 1. 平原町1丁目野中田地点

所在地 延岡市平原町1丁目856番地1外

調査原因 宅地造成

調査期間 20070522

調査面積 15.0m<sup>2</sup>

担当者 山田

処置 慎重工事

#### (1) 位置と環境

平原町は愛宕山（標高251.2m）から南東部（鶴ヶ丘方面）に延びる低丘陵と、東側（緑ヶ丘方面）の海岸砂丘との間に広がる沖積平野の微高地に位置する。周辺では、下平原町から繩掛突起を有する蓋石をもつ石棺が出土している他、大正時代の日豊本線建設工事中に弥生～古墳時代の土器類（詳細不明）が確認されているなど、周辺地区を含めて埋蔵文化財包蔵地の広がりが予想される地域となっている。文献資料によると、藩政時代には南北方向に街道筋（現県道）が通り、入り浜の自然地形を利用して日吉家、山本家、片伯部家、上田家、大山家が中心となって浜町、塩浜町を中心に塩田が営まれていた。明治維新後は農業中心へと移行したが、大正12年（1923）の日豊本線全線開業に伴い南延岡駅に機関区が設置され、街道筋に林立していた松並木も伐採されるなど街の景観は変化し、戦後は丘陵部の住宅開発が進んで農業地帯から住宅商業地として大きく変貌を遂げている。



Fig. 4 平原町1丁目野中田地点位置図 (1/15,000)

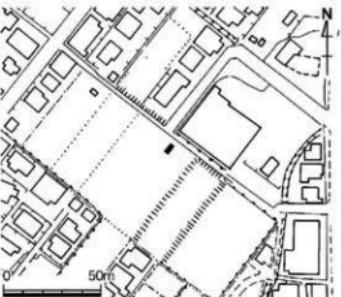


Fig. 5 平原町1丁目野中田地点調査区位置図 (1/2,500)

#### (2) 調査の概要

調査地は、約40年前に水田を埋め立てられた場所で、最近まで地区的運動公園として利用されていた。試掘調査は、予定地内にトレーニングを設定し、重機による掘削を中心として実施した。

調査の結果、客土が約130cmの客土を除去後、旧水田（標高約3.2m）を検出した。下層（標高約1.5～1.9m）からは、浜川の旧河道若しくはラグーン堆積物とみられる砂屑及び木片等の有機物を検出した。その下層は青灰色砂土で覆われており、大量の湧水を確認した。



PL. 1 平原町1丁目野中田地点 近景（南東から）

### (3) 検出遺構

なし

### (4) 出土遺物

なし

### (5) まとめ

今回の試掘調査において遺構検出等が無かったのは、土層堆積状況から浜川の旧河道若しくはラグーン付近であったことによると思われる。しかしながら、微高地に立地する旧来の集落地には遺跡の存在が予想されるため、引き続き周辺開発に留意する必要があろう。



PL\_2 平原町1丁目野中田地点 土層断面

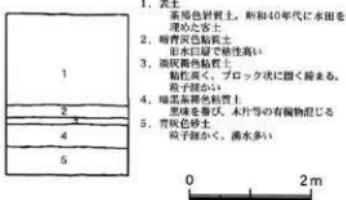
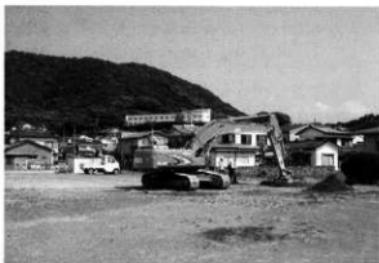
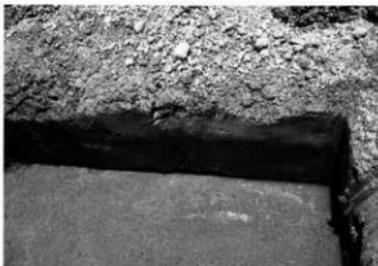


Fig. 6 平原町1丁目野中田地点土層断面図 (1/80)



PL\_3 平原町1丁目野中田地点 調査状況1 (南から)



PL\_4 平原町1丁目野中田地点 調査状況2 (湧水)



PL\_5 平原町1丁目野中田地点 調査状況3 (整地)

## 2. 延岡城内遺跡（第17次）

所在地 延岡市本小路78-2・79-2  
調査原因 宅地造成  
調査期間 2007年5月30日～2007年6月1日

調査面積 120.0m<sup>2</sup>  
担当者 尾方  
処置 慎重工事

### （1）位置と環境

延岡城は延岡市の中心部に位置する。延岡市の中心部は五ヶ瀬川、大瀬川の中洲にあり、延岡城はこの2つの川を外堀とし、標高約53.4mの独立丘陵を本城とし、西に約450mに位置する標高約23.8mの丘陵を西ノ丸とする二郭構成の近世城郭である。当時の藩主高橋元種により1600年から3年かけて築かれた。藩主は高橋氏以降、有馬氏、三浦氏、牧野氏、内藤氏と替わる。三浦氏以降は、日本で最も南に位置する諸代藩となる。

調査地は、現存する絵図等で内堀の位置にあたる。調査地の東隣を、平成17・18年度に延岡城第24次・25次調査として調査を行っている。両調査において、当初の推定よりも内堀の幅が広いことや遺構面が深い事など、堀の位置や大きさが徐々に明らかになりつつある。

### （2）調査の概要

内堀の検出に主眼をおき、3箇所にトレーンチを設定した。うち1箇所（トレーンチ1）は、内堀の規模を確認するために、調査区の北から南へ大きく設定し調査を行った。全てのトレーンチにおいて、地表から約2mの深さまで、後世の埋土であった。その下から湧水があり、暗青灰粘質土が検出された。近世以前の遺物は出土しなかった。調査区自体が、近代以降、内堀を埋めた土の上であると考えられ、その下層に内堀の遺構が残存している。

### （3）検出遺構

延岡城内堀

### （4）出土遺物

なし

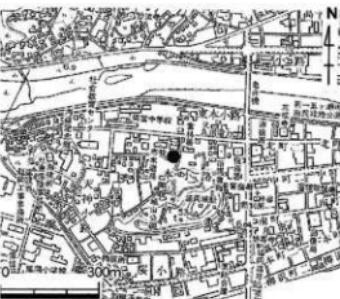


Fig. 7 延岡城内遺跡(第17次)位置図 (1/15,000)

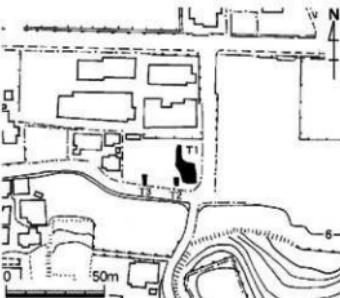


Fig. 8 延岡城内遺跡(第17次)調査区配置図 (1/2,500)

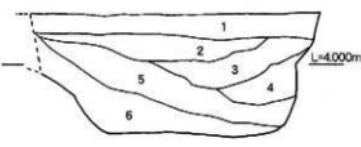


Fig. 9 延岡城内遺跡(第17次)トレーンチ3土層断面図(1/80)

## (5) まとめ

今回の調査は、延岡城の内堀の位置を正確に知る、重要な調査の1つとなった。堀の規模が当初の推定よりも広いこと、現地表面よりも遺構面が、かなり深い位置にあることが、あらためて実証され、延岡城第24次・第25次調査の結果を裏付けることとなった。



PL.6 延岡城内道路(第17次)近景(北東から)



PL.7 延岡城内遺跡(第17次)近景(東から)



PL.8 延岡城内遺跡(第17次)近景(西から)



PL.9 延岡城内遺跡(第17次)調査状況



PL.10 延岡城内遺跡(第17次)調査状況(トレンチ1)



PL.11 延岡城内遺跡(第17次)調査状況(トレンチ1)



PL.12 延岡城内遺跡(第17次)調査状況(トレンチ3)



PL.13 延岡城内遺跡(第17次)土層断面(トレンチ3)

### 3. 西階横穴2

所在 地 延岡市西階町1丁目4592番地外  
調査原因 市道改良  
調査期間 2007年6月13~2007年8月9日

調査面積 24.0m<sup>2</sup>  
担当者 山田  
処置協議

#### (1) 位置と環境

西階町は、延岡市の中西部に位置する五ヶ瀬川と大瀬川との分流地点から東側にある丘陵と低地が混在する地域にある。地区の中央部には南側の五ヶ瀬川に開口するよう理積谷があり、広大な湿田が広がっていたが、昭和30年代後半よりスタートした西階運動公園整備に伴い景観が一変している。本地域では古くから交通の要衝地を裏付ける遺跡が知られており、旧延岡市域唯一の古代の駅といわれる川辺の駅跡をはじめ、両河川に挟まれた丘陵上には土持氏の西階城跡（15世紀前葉）が立地している。川辺の駅跡は調査地東側に旧字名として地名が残っているが、現在地と照合すると旧水田跡付近となることから、調査地南側にあった低丘陵（宅地造成により消滅）及びその東側微高地周辺が比定地と考えられている。この他、周辺の低丘陵上には国史跡南方古墳群の第32号・同38号の円墳が所在する一方、調査地北方約200mの丘陵裾にあった同42号墳の横穴墓は、運動公園造成に伴い消滅している。

調査地の丘陵は小字名を丸山と称し、南東から北西方向に長軸をもつ最大高約8m、全長約85mの前方後円墳状を呈する独立丘陵になっている。市制三〇周年記念事業の西階地区総合開発事業の一環で運動施設整備と共に公園整備が行われた一角にあたる。鳥居龍藏によって「大貫丸塚山の有木棺古墳」及び「大貫丸塚山の横穴」として調査（1929）されており、北西ピークに立地する丸塚山古墳からは鉄製鎗、刀子、鐵鏟などが出土し、丸塚山横穴からは直刀、刀子、鐵鏟、管玉、瑞穂玉が出土している。この他、当丘陵では數次にわたって周辺部を含めた横穴墓の調査が実施されている。平成16年度の調査において、丘陵歩道の陥没



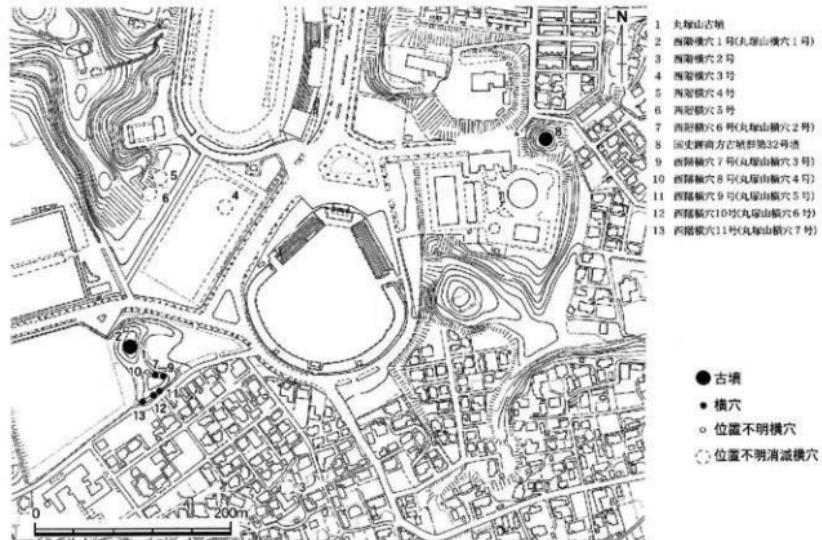
Fig.10 西階横穴2位置図 (1/15,000)



Fig.11 西階横穴2調査区配置図 (1/2,500)



PL.14 西階横穴空堀（南西から・昭和43年撮）



| 番号 | 遺跡名                  | 平成16年度報告          | 伝達群名              | 調査年次  | 調査者      | 形状  | 現状 | 遺物   | 備考  |
|----|----------------------|-------------------|-------------------|-------|----------|-----|----|--|---|
| 1  | 丸塚山古墳                |                   | 大貫丸塚山の有木松古墳       | 1929  | 鳥居範義     | 円墳  | 保存 | 銅鏡3、刀子1、<br>鏡5、鋒1、<br>鏡背面盤1                            | 本格直葬  |
| 2  | 西隣横穴1号<br>(丸塚山横穴1号)  | 西隣横穴1号<br>(位置錯認)  | 大貫丸塚山の横穴          | 1929  | 鳥居範義     | 横穴墓 | 不明 | 土器鏡2、直刀2、<br>刀子1、鏡盤14、<br>管玉12、鏡玉12                    | 馬路山古墳の上代の日々経過の記述では、入り口は崩壊してしまったが、入り口は直線的で、とあるが、位置写真との整合性では、丸塚山古墳の北斜面壁上に北側の方に開口していると判断するのが妥当 |
| 3  | 西隣横穴2号               | 西隣横穴2号<br>(位置誤認)  | 大貫羽羽の横穴           | 1929? | 河井田政吉    | 横穴墓 | 消滅 | 直刀1、刀子1、鏡盤<br>1、金管2、管玉22、<br>漆器玉192、漆器玉1、<br>鏡鏡小23、貝釧1 | 丸塚山丘陵の両京丘陵上(前城)と津守定が記すが、位置関係から今回未調査の丸塚山横穴11号の可能性もあり   |
| 4  | 西隣横穴3号               | 西隣横穴3号            | 国史跡南方古墳群<br>第42号墳 | 1971  |          | 横穴墓 | 消滅 |  | 西隣合運動公園造成により消滅  |
| 5  | 西隣横穴4号               | 西隣横穴4号            | 西隣町の横穴            | 1964  | 石川太郎     | 横穴墓 | 消滅 | 直刀1、刀子1、鏡盤<br>1、金管2、管玉22、<br>漆器玉192、漆器玉1、<br>鏡鏡小23、貝釧1 | 西隣合運動公園造成により消滅  |
| 6  | 西隣横穴5号               | 西隣横穴5号            |                   | 1964  | 石川太郎     | 横穴墓 | 消滅 | 直刀1、鏡盤7、鏡背<br>1、直刀1、等                                  | 西隣合運動公園造成により消滅  |
| 7  | 西隣横穴6号<br>(丸塚山横穴2号)  | 西隣横穴6号            |                   | 2004  | 延岡市教育委員会 | 横穴墓 | 保存 | 刀子1、管玉1、管玉<br>5、ガラス鏡小玉172                              | 土糞理設及び土壁保存  |
| 8  | 国史跡南方古墳群<br>第32号墳    | 国史跡南方古墳群<br>第32号墳 | 国史跡南方古墳群<br>第32号墳 | 1978  | 延岡市教育委員会 | 円墳  | 保存 |  | 未調査   |
| 9  | 西隣横穴7号<br>(丸塚山横穴3号)  |                   |                   | 2007  | 延岡市教育委員会 | 横穴墓 | 保存 |  | 未調査。空洞石一般露出   |
| 10 | 西隣横穴8号<br>(丸塚山横穴4号)  |                   |                   | 2004  | 宮崎県教育委員会 | 横穴墓 | 保存 |  | 確認トレレンジにより、閉塞石確認。詳細位置不明   |
| 11 | 西隣横穴9号<br>(丸塚山横穴5号)  |                   |                   | 2007  | 延岡市教育委員会 | 横穴墓 | 保存 | 鏡盤1、刀子1、<br>鏡背面盤1                                      | 一部破損。土糞理設保存   |
| 12 | 西隣横穴10号<br>(丸塚山横穴6号) |                   |                   | 2007  | 延岡市教育委員会 | 横穴墓 | 保存 |  | 一部破壊。土糞理設保存   |
| 13 | 西隣横穴11号<br>(丸塚山横穴7号) |                   |                   | 2007  | 延岡市教育委員会 | 横穴墓 | 保存 |  | 開口部は現代石垣により隠蔽   |

第2表 西隣横穴関連調査一覧表

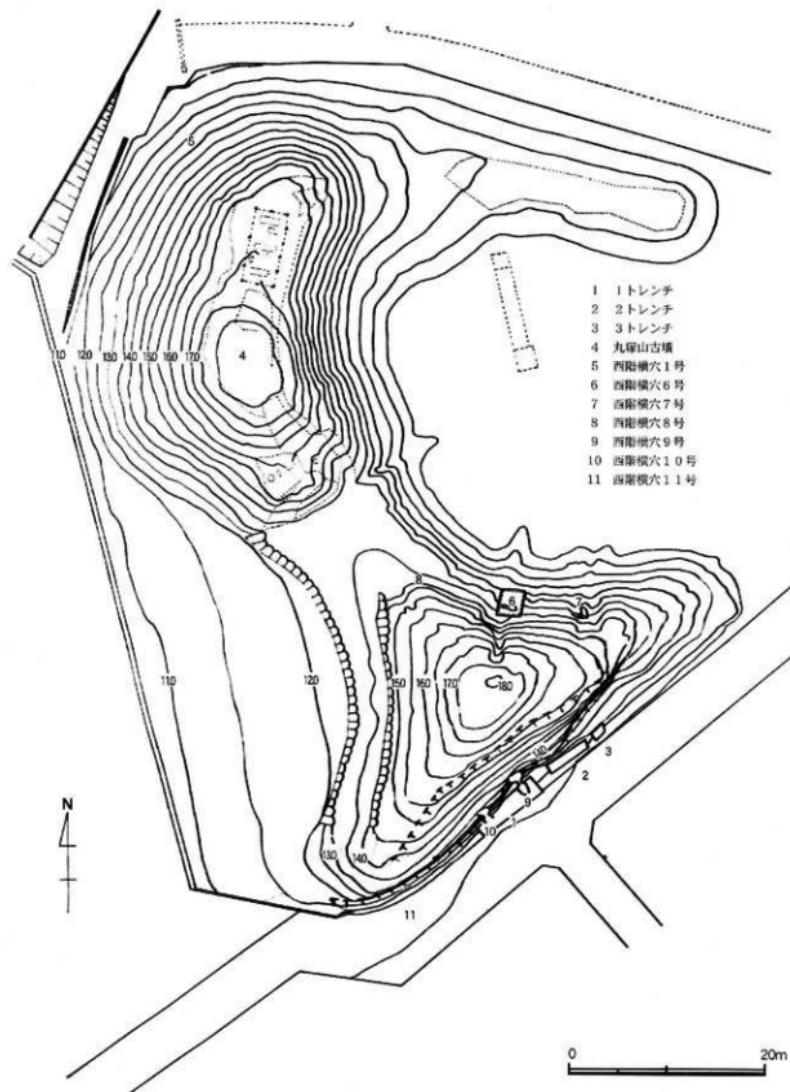


Fig.13 西階横穴 2 調査区及び造構配置図 (1/500)

穴から西階横穴6号（丸塚山横穴3号）が検出され、刀子1、勾玉1、管玉5、小玉172を確認している他、調査予定地周辺に横穴（防空壕？）が存在していたとの伝承が残っている。なお、鳥居龍蔵調査資料の詳細な検討を行った結果、従来「大貫丸塚山の有木棺古墳」と云われていた丸塚山古墳について、前述のように当丘陵に存在していることが正式に確認され、併せて国史跡南方古墳群第32号墳が未調査古墳の可能性が高まる状況となった。現在、丸塚山古墳北側において発掘調査等で出土した石棺の屋外展示を行っており、北側から、櫻山古墳（緑泥片岩製組合せ箱式石棺・S45.9調査）、赤木遺跡（阿蘇熔結凝灰岩製組合せ箱式石棺・S52.9調査）、西階町内出土（阿蘇熔結凝灰岩製剝抜石棺・運動公園造成時出土）の3基となっている。

## （2）調査の概要

調査地は、丸山丘陵の南側縁辺部に位置し、南西から北東方向に市道が丘陵を迂回するように通っている。これまでの工事等によって、丘陵縁辺部は高さ約1～5mにわたって崖状に削られて雑木や雑草で覆われていた。このため、消掃作業と測量実施後に調査箇所を検討することとした。消掃後の精査では上砂で殆ど塞がれた穴を確認したことから、これらを中心に3箇所のトレンチを設定して行った。調査の結果、1トレンチより2箇所の横穴を確認したが、何れも大量のゴミが廃棄された状態で、横穴墓か防空壕の判断が出来ず、これらを除去精査して床面確認を行うこととした。穴の上部は約1/3にわたって削平されており、内部は床面付近までゴミで覆われており、主に昭和40年代以降のガラス、陶磁器、ビニールなどが殆どであった。床面から排水溝が確認され、右側の横穴（西階横穴9号）の埋土から須恵器片・刀子と床面から鉄鏃が出土し、構造的にも横穴墓であることが判明した。左側の西階横穴9号は、現地表より約0.2m上位の位置にあたる。前庭部はフラットな構造で、長さ約1.2m、同最大幅約1.0mを計る。床面には玄室に通じる排水溝が見受けられ、阿蘇溶結凝灰岩の石材を小口に2個並べて蓋石状になっている。後門部には閉塞石の抜取り痕が残り、床面での石材復元幅は約0.7m、厚さ約0.1mである。玄室は、羨道より僅かな段差があるフラット状を呈し、中央部から奥壁右側と中央左側から左側壁にかけて排水溝を配置し、壁面には一部T工具痕が残っている。床面は不定形な隅丸方形で、最大長約1.0m、最大幅約1.6m、天井は、頂上部に平坦面を有する蒲鉾状のアーチ形を呈する。左例の西階横穴10号は、同9号の西約4mに位置する、9号の若干高位にあたり比高差約0.3mを測る。羨道は削平され全容はつかめないが、現存長約0.6m、同幅約1.1mとなっている。玄室から延びる排水溝が幅を広げながら中央部を縦断している。玄室は、9号と同様に羨道との若干段差を有しているが、玄室内で奥壁手前に向けて若干下っている点が違っている。床面は、不定形なフ拉斯コ状を呈し、最大長0.7m、最大幅約1.4mを計る。天井は蒲鉾状のアーチ形を呈する。なお、地元の話によると、現地表面はII水田より約2m以上の盛土をされているとのことで、何れの横穴も本来は斜面上にあったものと思われる。この他、西階横穴10号の西側約11mには石垣で塞がれた同11号（地元の伝承で横穴があつたらしい）が所在するが前述2基確認による概要把握されているため、今後の協議状況により対応することとした。

## （3）検出遺構

横穴墓3基（未調査1基）

## （4）出土遺物

西階横穴9号より、埋土から須恵器片1・刀子1（図面七2点）、床面から鉄鏃1が出土した。

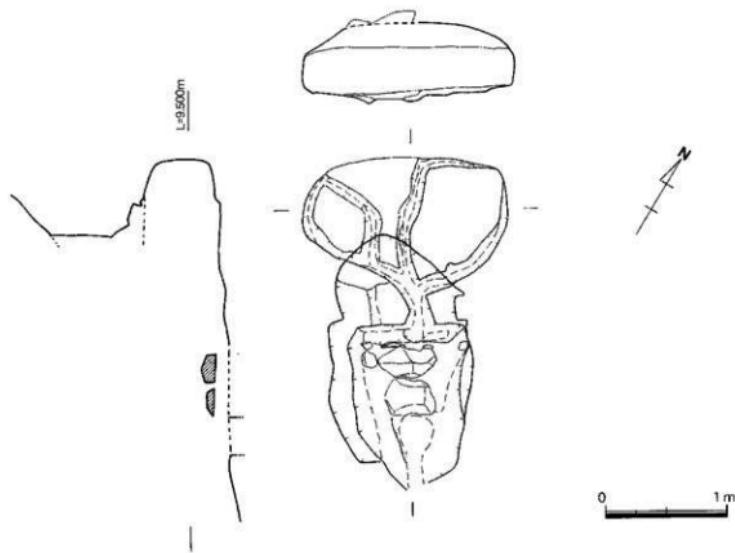


Fig.14 西階橫穴 9号遺構実測図 (1/40)

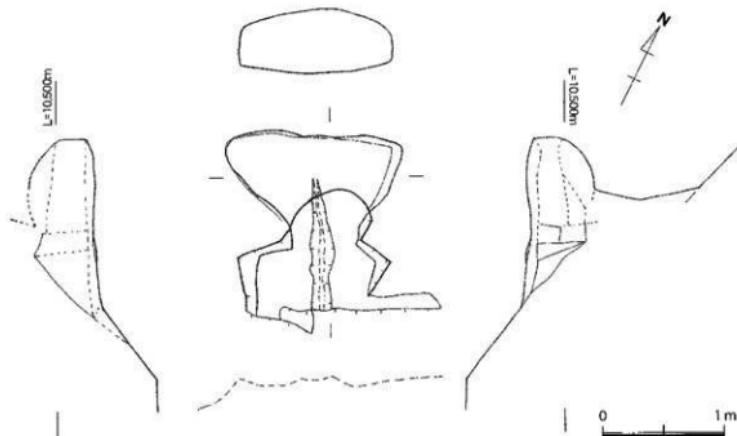


Fig.15 西階横穴 10号遺構実測図 (1/40)

(5) まとめ

今回の確認調査は、長雨や台風災害等により作業の遅延を余儀なくされたが、丸山丘陵における新たな横穴墓確認となり、丸塚山古墳を含む当丘陵には横穴墓群が多数存在している可能性を裏付けるものとなった。このため、事業予定地には未調査の西階横穴11号を含む未確認の横穴群の存在も予想されるため、慎重な対応が必要になろう。

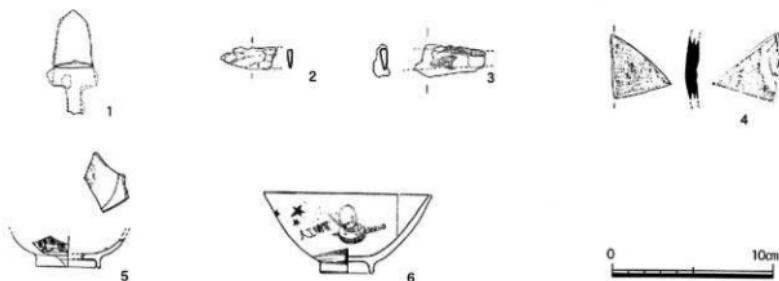
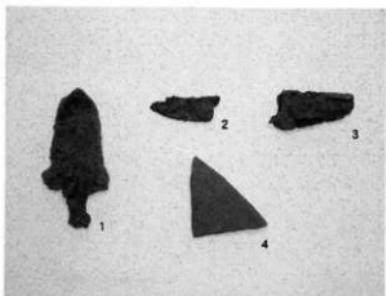


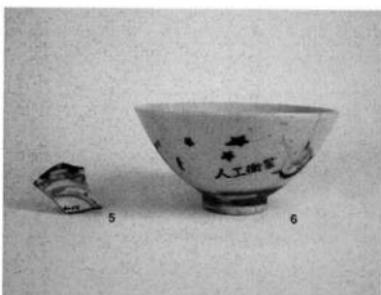
Fig.16 西階横穴 9 号 出土遺物実測図 (1/3)

| 遺物<br>番号 | 種別  | 器種  | 出土地点 | 層位  | 法 直  |      |     | 形態及び文様    | 備考        |
|----------|-----|-----|------|-----|------|------|-----|-----------|-----------|
|          |     |     |      |     | 口径・長 | 底径・幅 | 高・厚 |           |           |
| 1        | 鉄 帶 | 鉄帯  | 9号横穴 | 床 土 | 6.6  | 2.8  | 0.2 | 平根式       |           |
| 2        | 鉄 帯 | 刀子  | 9号横穴 | 埋 土 | 3.5  | 1.3  | 0.5 | 刃先のみ      | 3と同一      |
| 3        | 鉄 帯 | 刀子  | 9号横穴 | 埋 土 | 4.2  |      |     | 木質残存      |           |
| 4        | 漆油漆 | 漆類? | 9号横穴 | 埋 土 |      |      |     | 一方にカキ目あり  |           |
| 5        | 鐵 帶 | 袋鉢  | 袋鉢   |     |      | 3.8  |     | 見込み環状松竹梅文 | 肥前系       |
| 6        | 鐵 帶 | 染付鉢 | 9号横穴 | 埋 土 | 10.0 | 3.2  | 5.0 | 外面「人工施主」  | 1960~70年代 |

第3表 西階横穴 9号出土遺物観察表



PL.15 西階横穴 9 号 出土遺物 1



PL.16 西階横穴 9 号 出土遺物 2



PL.17 西階横穴 調査前（東から）



PL.18 西階横穴 清掃後（西から）



PL.19 西階横穴 1トレンチ清掃状況（南東から）



PL.20 西階横穴 9・10号 調査状況



PL.21 西階横穴10号 検出状況



PL.22 西陽横穴 1号 調査時 (1929)



PL.23 西陽横穴 1号付近 現在 (北西から)



PL.24 西階横穴7号 閉塞石露出状況



PL.25 西階横穴11号 石垣閉塞状況



PL.26 西階横穴 9号 調査状況（県立延岡商業高校考古研修）



PL.27 西階横穴 9号 遺物出土状況



PL\_28 西壁横穴 9 号 检出状况



PL\_29 西階横穴9・10号 検出状況



PL\_30 西階横穴9・10号 土囊保存状況

## 4. 延岡城下町遺跡（第2次）

所在地 延岡市北町1丁目1-4  
調査原因 マンション建設  
調査期間 2007.11.05~2007.11.22

調査面積 24.6m<sup>2</sup>  
担当者 山田  
処置 工事立会

### （1）位置と環境

延岡（縣）城跡は、慶長8年(1603)に初代延岡藩主高橋元種によって築城されたもので、五ヶ瀬川下流域に形成された沖積平野の中州（川中地区）に所在する。城の東側には北町、中町、南町の城下町が整備され、元種の後に入封した有馬氏の段階で柳沢町がつくられ、川北地区の元町、紺屋町、博労町と併せていわゆる延岡七町が完成した。記録によると、北町は東西百三十八間、道幅一間半、中町は東西二百二十九間、道幅二間、南町は東西百三十一間、道幅三間となっており、各々に道幅一間の横町が設けられた。また、各町内の要所には寺院が配置され、北町に白道寺（現三福寺）、中町に誓敬寺、照源寺、南町に専念寺、妙専寺、光勝寺、本善寺（廃寺）があり、城下町の経済活動とともに、寺院空間を活用した戦時対応や防災機能強化を狙ったものと考えられている。

今回の調査地は、以前照源寺が建っていた場所にある。寺は真宗本願寺派の寺院で、天正年間に開祖したとされている。はじめは中町（調査地と中町通りの間付近）に所在していたが、昭和20年6月29日の延岡大空襲により罹災。昭和21～32年の戦災復興事業によって北町（調査地）に移転した。しかし、平成3年（1991）の火災による焼失後は駐車場として利用され、寺院は川原崎町の現在地に移転している。

### （2）調査の概要

調査地は、北町通りと五ヶ瀬川堤防に接す地点で、標高約6mを測り駐車場として利用されている。このため、確認調査は旧照源寺本殿（RC構造）の配置関係に留意しつつ駐車場利用者への配慮をしながら4箇所のトレンチを設定し、重機と

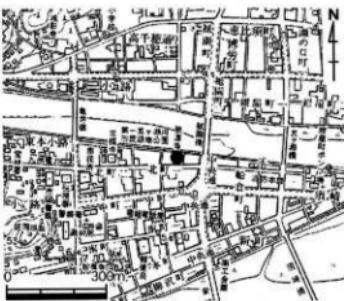


Fig.17 延岡城下町遺跡(第2次)位置図 (1/15,000)

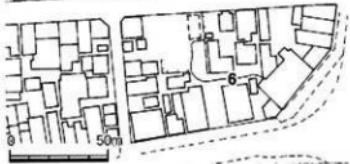


Fig.18 延岡城下町遺跡(第2次)調査区配置図 (1/2,500)



PL.31 延岡城下町遺跡(第2次) 調査前（南から）

人力により実施した。

調査地北西部と南西部に設定した1・4トレチは、全面的に擾乱を受けており、旧照源寺建物のコンクリート片で覆われていた。五ヶ瀬川堤防側に南北方向に設定した2トレチでは、地表下約40cmから旧照源寺の表土層を検出し、下層は平均厚約40cmの石炭ガラ層を含む戦災復興造成層(約100~150cm)を確認した。トレチ北角から間知石積の旧堤防石垣を検出し、約3.6mの幅をおいて戦災による大量の焼土層(現地表下約1.4m)直下から当時の建物跡を確認し、溶けたガラス片や焼瓦が出土したほか、礎石に煤が付着し受熱により一部赤化しているのが確認された。

検出された石垣は、調査地西隣の一区画を挟んで

西側を川沿いに通る現市道の五ヶ瀬川側に同種類の石積堤防が見受けられることから、本来は現市道と同レベルの高さにあったものが復興事業によって堤防上部まで埋め立てられたと思われる。また、旧堤防から建物跡間は戦災復興造成層直下から瓦廃棄穴を確認したほか硬面とは云えない砂礫層を検出した。これは、明治維新前後の絵図史料に道路が描かれていないものの、土層堆積状況から明治以後から戦災前の間で、前述の西側市道が幅二間の通路としてここを通過して板橋(東側)に延び、橋の手前付近で階段若しくはスロープで橋のレベルまで通路が傾斜していたとみるのが適当と思われる。3トレチでは、明治~昭和初期の建物基礎と思われる切石の石組構造を検出し、戦災建物跡から大量の炭化麦類が出土したほか、下層から盛土(時期不明)と思われる砂礫層(第11層)を確認した。出土した炭化麦について、あがた会・在京延岡小学校同窓会作成の「空襲前、延岡小学校々区、住居地図」によると、戦災直前には「米屋」があったとされていることから、この建物に関連するものと思われる。

### (3) 検出遺構

- 2トレチより、旧五ヶ瀬川堤防石垣(明治~昭和初期)、戦災遺構(建物跡)を検出した。  
3トレチより、石組構造(明治~昭和初期)を検出した。

### (4) 出土遺物

- 2トレチでは、戦災面より焼瓦をはじめ、瓦廃棄穴から刻印のある平瓦、軒平瓦が出土した。  
3トレチでは、埋土から陶磁器片が出土したほか、戦災面より大量の炭化麦を検出した。各遺物の詳細については、別表に記載しておく。

### (5) まとめ

今回の確認調査では、予想された近世遺構は確認されなかった。しかしながら、本市復興の原点にもなっている延岡大空襲に関連する生々しい戦災遺構・遺物を確認できたことは一定の成果といえる。周辺地区では、今後も再開発事業の展開も予想されることから、引き続き周辺地域の開発に留意する必要があろう。



Fig.19 延岡城下町通路(第2次)土層断面図 (1/80)



L-7.200m

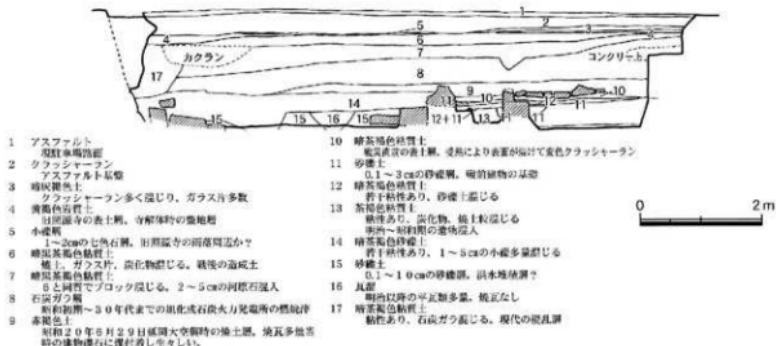


Fig.20 延岡城下町遺跡(第2次)構造・土層断面図(2トレンチ・1/80)



PL.32 延岡城下町遺跡(第2次) 旧堤防検出状況(2トレンチ)



PL.33 延岡城下町遺跡(第2次) 土層断面(2トレンチ・南から)



PL.34 延岡城下町遺跡(第2次) 戦災遺構(2トレンチ・北から)

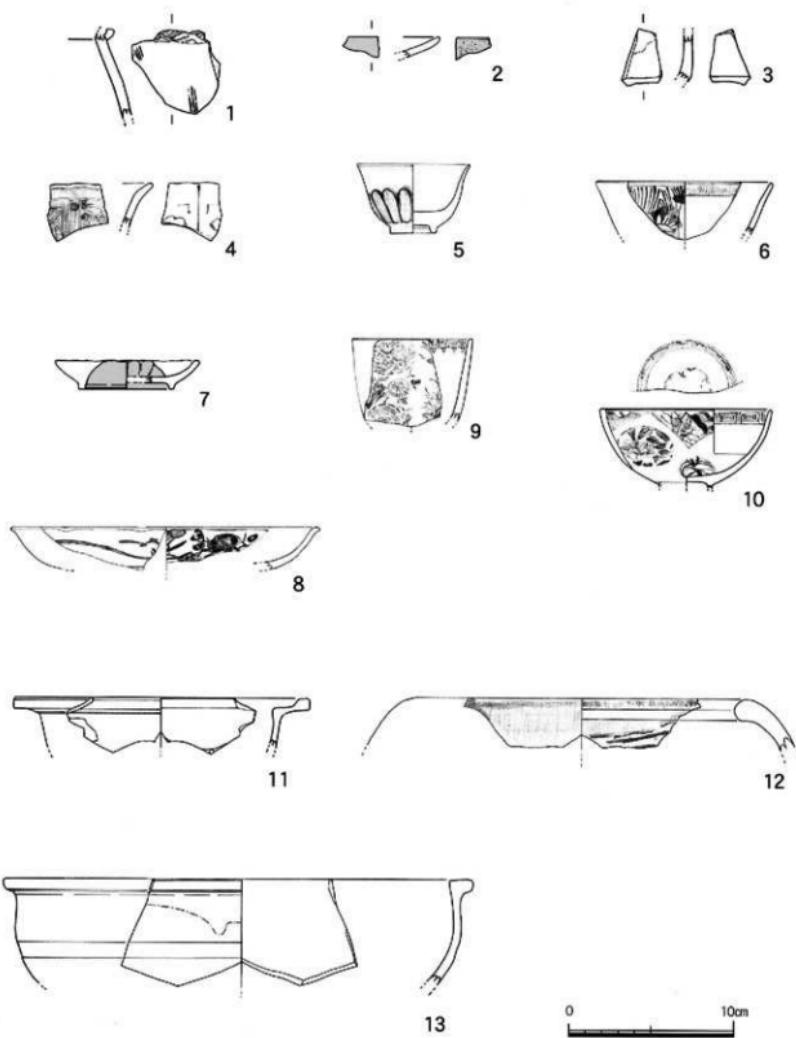
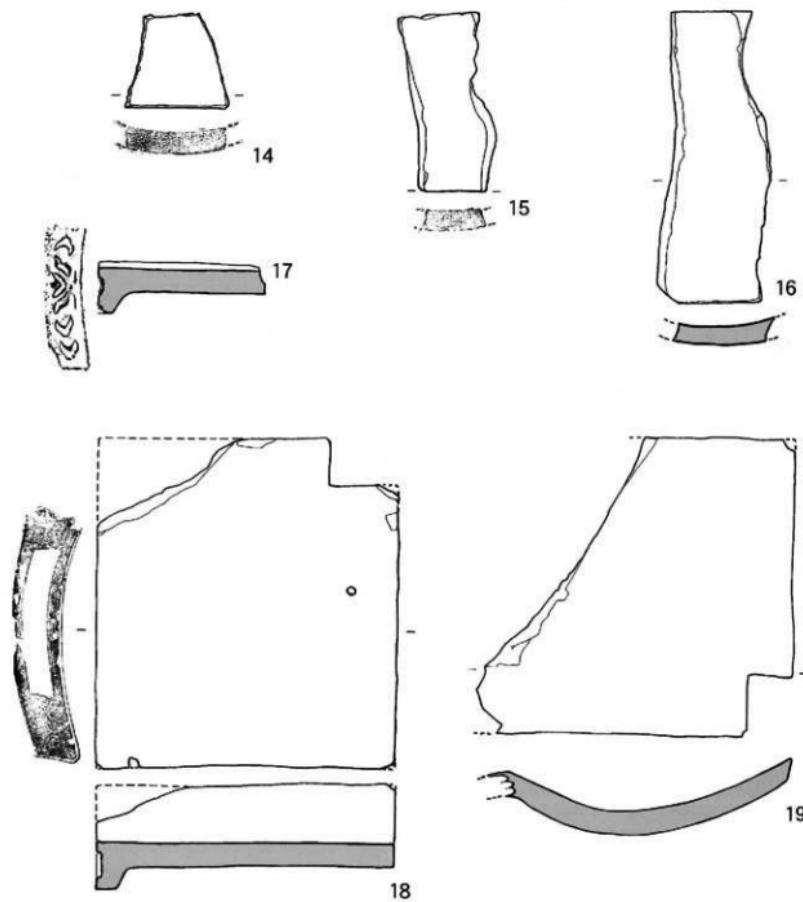


Fig.21 延岡城下町遺跡(第2次)出土遺物実測図 1 (1/3)

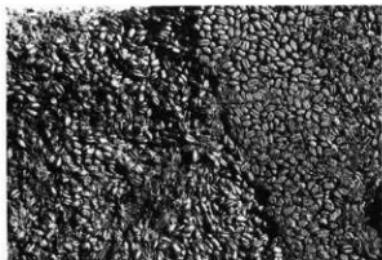


0 10cm

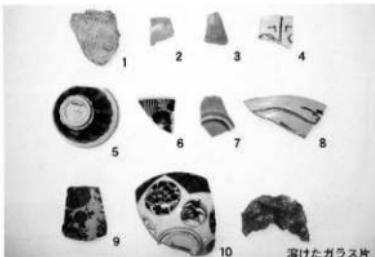
Fig.22 延岡城下町遺跡(第2次)出土遺物実測図 2 (1/4)

| 遺物<br>番号 | 種別  | 器種     | 出土地点  | 層位    | 法量   |      |      | 形態及び文様                      | 備考                     |
|----------|-----|--------|-------|-------|------|------|------|-----------------------------|------------------------|
|          |     |        |       |       | 口径・長 | 底径・幅 | 器高・厚 |                             |                        |
| 1        | 陶土器 | 甕?     | 3トレンチ | 9層    |      |      |      | 頸部に點付割目実唇文                  | 弥生後期                   |
| 2        | 陶器  | 皿      | 3トレンチ | 一汚    |      |      |      | 内外面灰釉                       |                        |
| 3        | 陶器  | 火入     | 3トレンチ | 一汚    |      |      |      | 外面貫入あり                      | 肥前系                    |
| 4        | 陶器  | 染付輪花鉢  | 3トレンチ | 一汚    |      |      |      | 内面窓絵                        | 肥前 18~19c              |
| 5        | 陶器  | 染付小杯   | 3トレンチ | 戰災面直下 | 6.8  | 2.7  | 4.4  | 外面花卉文                       | 潮戸美濃 19c ~             |
| 6        | 陶器  | 染付碗    | 4トレンチ | 亂     | 10.8 |      |      | 内外面施文                       | 肥前系 19c                |
| 7        | 陶器  | 吉田輪花小皿 | 3トレンチ | 戰災面直下 | 9.0  | 5.8  | 1.8  | 輪文                          | 肥前 19c<br>火災による受熱で表面変色 |
| 8        | 陶器  | 染付輪花皿  | 3トレンチ | 戰災面直下 | 19.1 |      |      | 内面梅文花 外面唐草文<br>内外面貫入あり      | 肥前 17~18c              |
| 9        | 陶器  | 染付碗    | 3トレンチ | 焼土中   |      |      |      | 内外面型紙縫                      | 肥前 19c 後半              |
| 10       | 陶器  | 染付碗    | 3トレンチ | 戰災面直下 | 10.3 |      |      | 見込み環状松竹梅文<br>内面口縁部四方格文 外面花文 | 肥前 19c                 |
| 11       | 陶器  | 鉢      | 3トレンチ | 戰災面直下 | 18.3 |      |      | 内外面鉄錆                       | 岡内系                    |
| 12       | 陶器  | 鉢      | 3トレンチ | 亂     |      |      |      | 内外面施釉                       | 潮戸美濃 19c               |
| 13       | 陶器  | 鉢      | 3トレンチ | 9層    | 29.0 |      |      | 内外面灰釉                       | 肥前                     |
| 14       | 瓦   | 平瓦     | 2トレンチ | 瓦窓穴   |      |      |      | 側面「12弁花文」+「平大」刻印            | 明治~昭和初期                |
| 15       | 瓦   | 平瓦     | 2トレンチ | 瓦窓穴   |      |      |      | 側面「12弁花文」+「平大」刻印            | 明治~昭和初期                |
| 16       | 瓦   | 平瓦     | 2トレンチ | 戰災面直下 |      |      |      | 戰災による受熱で明暗色化                | 明治~昭和初期                |
| 17       | 瓦   | 軒平瓦    | 2トレンチ | 瓦窓穴   | 24.4 | 1.6  |      | 瓦当唐草文様                      | 19c~昭和初期               |
| 18       | 瓦   | 軒平瓦    | 2トレンチ | 瓦窓穴   | 24.3 |      |      | 瓦当四面のみ                      | 明治~昭和初期                |
| 19       | 瓦   | 平瓦     | 2トレンチ | 瓦窓穴   | 27.4 |      |      | 刻穴あり 滲痕付着                   | 明治~昭和初期                |

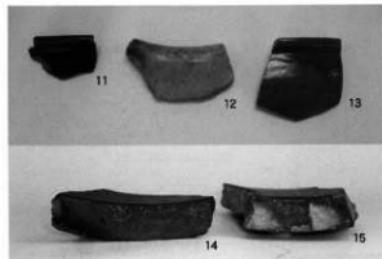
第4表 延岡城下町遺跡(第2次)出土遺物観察表



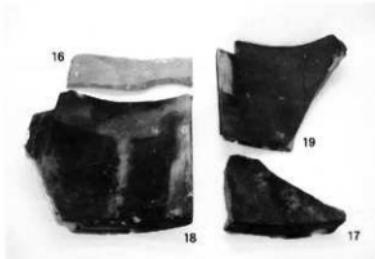
PL.35 延岡城下町遺跡(第2次) 炭化麥出土状況(3トレンチ)



PL.36 延岡城下町遺跡(第2次) 出土遺物 1



PL.37 延岡城下町遺跡(第2次) 出土遺物 2



PL.38 延岡城下町遺跡(第2次) 出土遺物 3

## 5. 大武町志多留地点

所在地 延岡市大武町179番地外  
調査原因 宅地造成  
調査期間 2007.11.07～2007.11.14

調査面積 70.0m<sup>2</sup>  
担当者 尾方  
処置 慎重工事

### (1) 位置と環境

遺跡の所在する大武町は、近世に港町として栄えた。現在は、その町割と僅かに残る石垣が当時をしのばせるのみである。近代以降に埋め立て等が進み、現在の延岡港は更に東に位置する。

調査地は大武川が、ほぼ直角に大きく流れを変える地点の内側に位置する。調査地付近の川幅は現在、約2mと非常に狭くなっているが、昭和初期までは川の南側（現県道延岡港線）に広かったようである。調査区の南東隣には、以前、酒屋があり原酒を積み出すための船等が接岸していたようである。現在は川の流れも細く、水深も無いため調査地付近まで船が入ることはできない。また、地区の人たちの聞き取りでは、調査地は昭和の初期頃まで低湿地帯で、藪が広がっていたようである。

### (2) 調査の概要

周辺の調査実績がないことから、土層観察等に主眼を置き調査区を設定した。設定したトレンチは4箇所である。

調査地の標準的な土層は以下のとおりである。  
第1層 耕作土、第2層 旧耕作土（暗褐色土・ビニール等が混入する）、第3層 淡黄褐色砂質土、第4層 淡黄褐色砂質土（3層より粘質を有する）、第5層 砂利層（1～5cmの小砂利）。陶磁器が混じる、第6層 暗灰褐色粘質土、第7層 淡黄灰褐色土（砂質が多い、鉄斑が混じる）、第8層 暗褐色粘質土、第9層 砂層（荒砂）、第10層 砂利層（5～10cmの丸石が中心。砂、小砂利が混じる）。どのトレンチも現地表より約2mで湧水があり、潮の干満で水位が上下した。大武川の後背湿地にあたり、遺構は検出されなかった。第5層に陶磁器や古錢が混じるが、土層の状況から流入

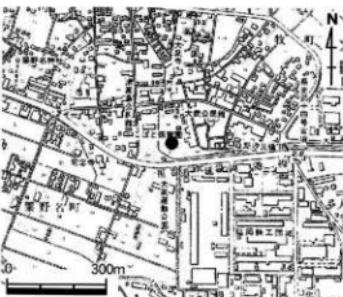


Fig.23 大武町志多留地点位置図 (1/15,000)

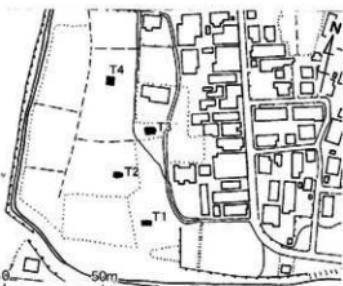


Fig.24 大武町志多留地点調査区配置図 (1/2,500)



Pl.39 大武町志多留地点 近景 (北から)

や廃棄されたものと判断される。

また、調査区外であるが北東の隅の地権者より、荒地を開いた際に無縁墓(PL41・PL42)が出土したとの話があった。地権者は諸々のさわりがあったため、近くの大武寺に移設し供養しているとのことだった。現在は開墾をやめ、現在は荒地になっている。墓には『嘉永六 丑天／社爲有縁無縁一切聖靈也／霜月廿八日』と彫られている。

### (3) 検出遺構 なし

### (4) 出土遺物 (Fig26・PL43・PL44・第5表)

幕末～明治期の陶磁器が主な出土遺物である。1、2は紅皿である。1、2ともにロクロ成形後、両面とも施釉されている。1は外面に笹文を有する。3は端反の小杯で、外面に草花文が施されている。4は仏壇器で、ロクロ成形で、底部は削出している。例り込みは浅い。5は蓋付碗の蓋で、つまみ直下に段をもち、直線的に開く形状をしている。外面は見込以外は青磁釉で、高台見込に満福の銘有り。内面は口縁部に四方棒文を巡らし、二重圓線内にコンニャク印判五弁花文を有する。6、7は丸形碗で、6は外面に雪輪梅花文、高台見込に銘を有す。7は外面に二重網目文を巡らす。8は皿で見込にハマ痕が有る。高台疊付は無釉で、砂目が残

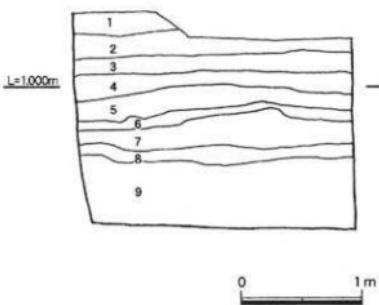


Fig. 25 大武町志多留地点トレンチ2 土層断面図 (1/40)



PL. 40 大武町志多留地点 トレンチ2 (東から)



PL. 41 大武町志多留地点 無縁墓 (元位置)



PL. 42 大武町志多留地点 無縁墓 (大武寺)

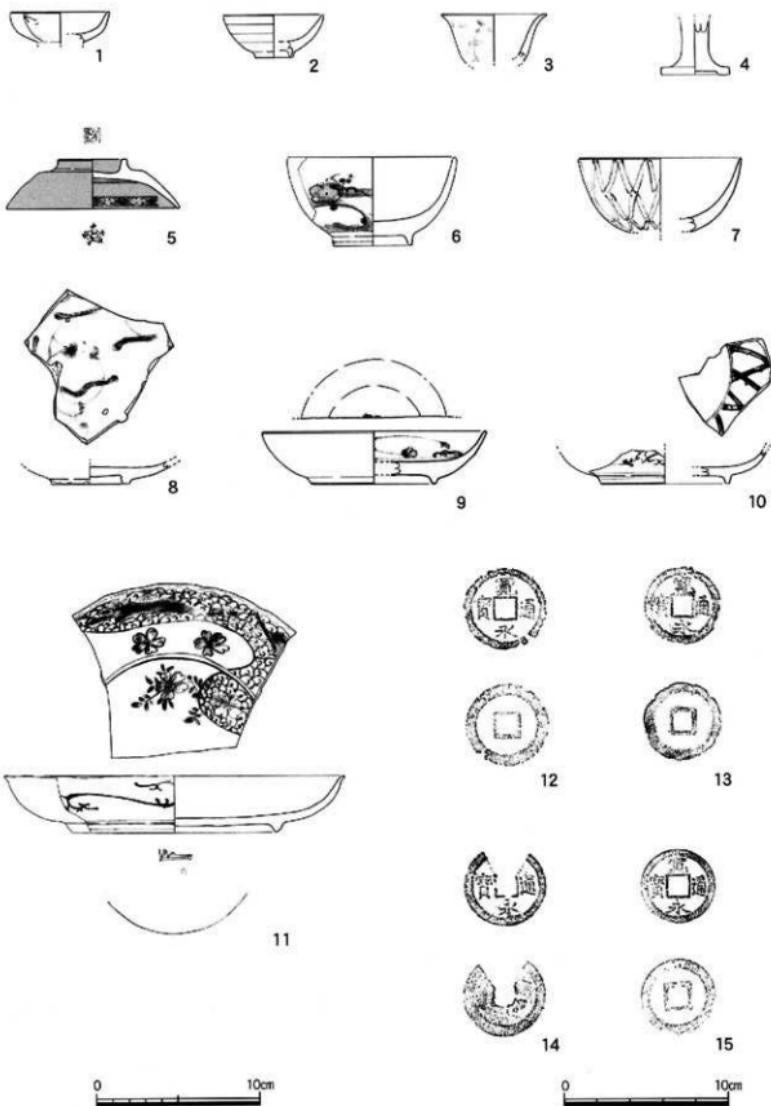


Fig.26 大武町多留地点出土遺物実測図 (1~11 1/3, 12~15 2/3)

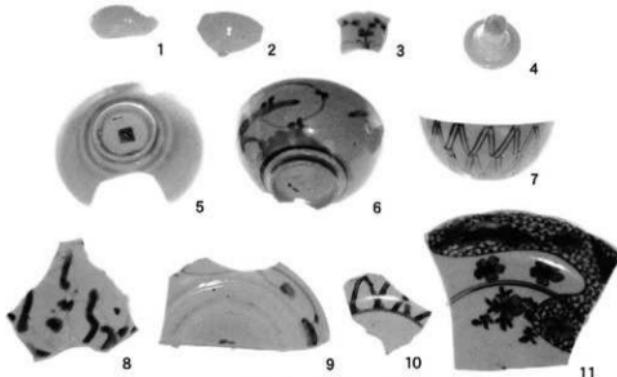
る。9、10も皿である。9は見込蛇の目釉剥ぎ、銘を有する。菊唐草文を巡らす。外面は豊付のみ釉剥ぎで、砂目が残る。10は内面に竹の網目文を巡らし、外面は唐草文を施す。豊付は無釉である。11は口径20.3cmの中皿で口縁輪花で、内面に施文を巡らす。外面は唐草文を巡らし、見込に銘有、高台内にハマ痕が残る。豊付のみ釉剥ぎである。12~15は寛永通宝である。

| 遺物<br>番号 | 種別   | 器 種 | 出土地点  | 法 量  |       |      | 形態及び文様                       | 備 考 |
|----------|------|-----|-------|------|-------|------|------------------------------|-----|
|          |      |     |       | 口径-長 | 底径-幅  | 器高-厚 |                              |     |
| 1        | 磁器   | 紅皿  | トレンチ2 | 6.0  |       |      | 外面 唐文                        | 肥前系 |
| 2        | 磁器   | 紅皿  | トレンチ2 | 6.1  |       |      |                              | 肥前系 |
| 3        | 磁器   | 小口杯 | トレンチ2 | 6.4  |       |      | 慈光文様                         |     |
| 4        | 磁器   | 豆皿  | トレンチ2 |      | 4.1   |      | ロウの成形底部割り出し                  |     |
| 5        | 磁器   | 青磁盃 | トレンチ3 | 10.5 | 3.0   | 4.3  | 見込か五弁花 四方攢文巡らず 漢字の銘款         | 肥前系 |
| 6        | 磁器   | 碗   | トレンチ3 | 10.0 | 4.6   | 5.5  | 外面 竹の網目文様 高台見込に銘             | 肥前系 |
| 7        | 磁器   | 碗   | トレンチ3 | 10.0 |       |      | 外面 二重綱口文                     | 肥前系 |
| 8        | 磁器   | 盤   | トレンチ1 |      | 4.7   |      | ハマ痕有                         |     |
| 9        | 磁器   | 盤   | トレンチ2 | 13.4 | 7.4   | 3.1  | 内面 蛇の目釉剥ぎ 見込み五弁花             | 肥前系 |
| 10       | 磁器   | 盤   | トレンチ3 |      | 7.8   |      | 内面 口縁輪花 唐草文様                 |     |
| 11       | 磁器   | 皿   | トレンチ3 | 20.3 | 12.0  | 3.4  | 外面 口縁輪花 唐草文様 高台見込銘款「萬福?」ハマ痕有 | 肥前系 |
| 12       | 青銅器品 | 古鏡  | トレンチ2 | 2.3  | 2.7g  | 0.15 | 寛永通宝                         |     |
| 13       | 青銅器品 | 古鏡  | トレンチ2 | 2.4  | 2.15g | 0.15 | 寛永通宝                         |     |
| 14       | 青銅器品 | 古鏡  | トレンチ2 | 2.4  | 1.4g  | 0.10 | 寛永通宝                         |     |
| 15       | 青銅器品 | 古鏡  | トレンチ3 | 2.3  | 2.4g  | 0.15 | 寛永通宝                         |     |

第5表 大武町志多留地点出土遺物観察表

### (5) まとめ

今回の調査では遺構は検出されていないが、大武港の盛時を思わせる遺物等が出土している。川の後背湿地部にあたり、以前から遊水帯として考慮されていたと思われる。今後も、周辺開発に留意する必要があろう。



PL-43 大武町志多留地点 出土陶磁器



PL-44 大武町志多留地点 出土古銭

## 6. 愛宕山第2地点

所在地 延岡市愛宕山6112-1  
調査原因 携帯電話無線基地局建設  
調査期間 2007.12.11~2007.12.20

調査面積 5.5m<sup>2</sup>  
担当者 山田  
処置 慎重工事

### (1) 位置と環境

延岡市の中南部に位置する愛宕山（標高251.2m）は、古くは笠沙山若しくは笠沙岬ともいわれ、ニニギノ尊と木花咲耶姫に関連する伝説地ともなっている。山頂の東尾根筋には当山北麓にある愛宕神社の奥の院が造営されており、市民の散歩コースにもなっている。愛宕神社は、慶長8年（1603）、初代延岡藩主高橋元種が延岡城を築城の際に城山山頂（現鐘突堂付近）にあった社を当地に移したのがはじまりと云われているが、現時点で確証を得る史料は得られていない。一方、当山の北東山麓には愛宕山洞穴が位置し、大正15年（1926）の鳥居龍藏による発掘調査で縄文土器片、獸骨等が出土している。また、昨年度の調査において愛宕山北麓の標高約100mの地点で平安後期の土師器類が出土（愛宕山第1遺跡）し、当山麓における遺跡の初例となるなど、ようやく当山周辺の歴史変遷解明が緒に進いたところである。

### (2) 調査の概要

調査地は、山頂から愛宕神社奥の院を通り東に下る尾根筋にあたる標高約228mの傾斜地に位置し、周辺には各テレビ局や携帯電話無線基地局などのアンテナ群が立地している。調査地は、尾根筋を一部開削して平坦面となっている杉林の中にあり、戦後の開墾によるものか奥の院関連遺構の存在が予想された。そこで、測量調査と併せて平坦面の造成状況を把握するため、傾斜に沿ってトレンドを設定して行った。

調査の結果、表土直下より最大厚約100cmにわたり造成に伴う地山岩土の埋土層を検出し、下層より炭化物を含む暗灰褐色土を確認した。本層を自然地形が残るトレンド北側斜面と照合したこと

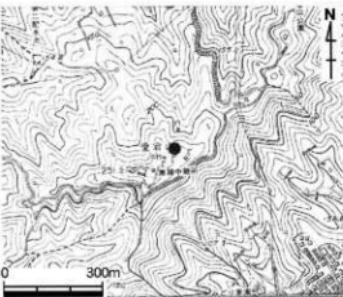


Fig.27 愛宕山第2地点位置図 (1/15,000)



Fig.28 愛宕山第2地点調査区配置図 (1/2,500)



PL.45 愛宕山第2地点 遠景 (北西から)

ろ、旧表土の可能性が高いことが判明した。さらに下層を掘り下げたが、程なく地山風化砂岩層(古第三紀：伊福形累層)を検出した。

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

なし

(5) まとめ

今回の試掘調査では、遺物等が確認されず平坦面の造成時期の解明には至らなかった。しかし、周辺の地形観察では、通信施設で一部破壊されているものの、平坦面が愛宕神社奥の院北側から尾根を巡るように調査地付近を通って南側へ「コの字状」に連なっていることから、何らかの意図があるものと推定される。よって、今後も引き続き周辺開発に留意する必要があろう。



PL-46 爽石山第2地点 調査状況



PL-47 爽石山第2地点 土層断面(北東壁)

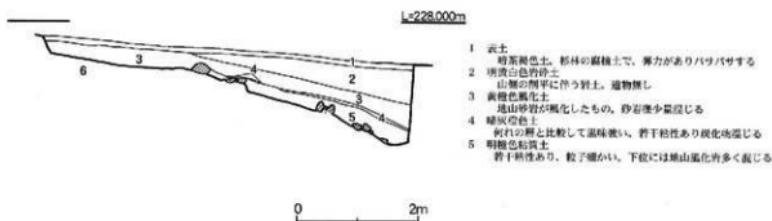


Fig.29 爽石山第2地点土層断面図 (1/80)

## 7. 古城町4丁目樋ノ下地点

所在 地 延岡市古城町4丁目141  
調査原因 共同住宅建設  
調査期間 20080129～20080206

調査面積 8.2m<sup>2</sup>  
担当者 山田  
処置 慎重工事

### (1) 位置と環境

延岡市の中南部に位置する愛宕山（標高251.2m）は、古くは笠沙山若しくは笠沙岬ともいわれ、神話伝説の地になっている。その愛宕山から西方に張り出した丘陵は、一度谷に下って独立丘陵状の丘陵へ続いている。この丘陵上には中世土持氏の井上城跡が立地しており、現在でも天守山と云われている。城の主体部は居館跡と推定されている県立延岡高校西丘陵（創価学会会館付近）であり、昭和初期の延岡市全図にも西丘陵を井上城跡と記載されていたが、その後の宅地開発等によって改変された影響もあり、現在城跡と認識されているのは天守山となっているようである。現在、周辺一帯を含めて古城町の地名が残っており、城郭関連の地名が往時を偲ばせている。この他、周辺遺跡には県立延岡高校西丘陵南斜面の古城窯跡（19c）などが立地している。

古城町は、昭和60年代より愛宕町、恒富町に跨る区画整理事業が実施されており、井上城跡の居館と山城の間には都市計画道路が整備されるなど、田園地帯から住宅地へと様相が大きく変貌している地域にあたる。

### (2) 調査の概要

調査地は、市立恒富中学校から北方方向に約50mの地点にあたり、標高約6.2mを測る。区画整理前は水田の場所で、1箇所のトレンチを設定し、重機と人力により実施した。

調査の結果、表土より約160cm下まで区画整理に伴う客土で覆われ、直下から旧水田層が削平された暗青灰褐色粘質土を検出した。この下層の淡青灰色粘質土からローリングを受けた土師器の微小片が出土した。

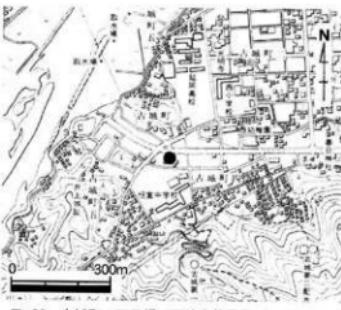


Fig.30 古城町4丁目樋ノ下地点位置図 (1/15,000)

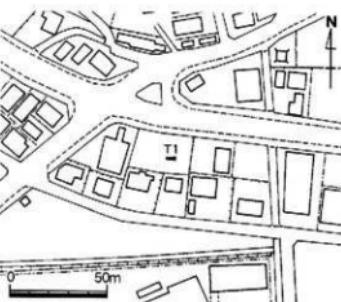


Fig.31 古城町4丁目樋ノ下地点調査区配置図 (1/2,500)



PL.48 古城町4丁目樋ノ下地点 近景 (北東から)

### (3) 検出遺構

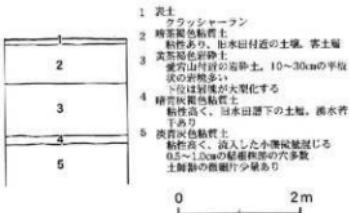
なし

### (4) 出土遺物

土師器片

### (5)まとめ

今回の試掘調査では、微細な土師器片が少量出土したが遺構検出には至らなかった。しかしながら、井上城跡をはじめ主要遺跡が立地していることから、引き続き周辺開発に留意する必要があろう。



PL-49 古城町4丁目植ノ下地点 調査前



PL-50 古城町4丁目植ノ下地点 調査状況



PL-51 古城町4丁目植ノ下地点 土層断面1 (東壁)



PL-52 古城町4丁目植ノ下地点 土層断面2 (南壁)

## 8. 延岡城内遺跡（第16次）

所在 地 延岡市本小路173-22

調査面積 5.0m<sup>2</sup>

調査原因 個人住宅建設

担当者 山田

調査期間 2007年01月25日～2007年02月13日

処置 慎重工事

### （1）位置と環境

川中地区は、市街地中心部を東流する五ヶ瀬川と大瀬川に挟まれた中州に形成された地域で、西半分は独立丘陵の城山が立地している。この地区は、古くから両河川の氾濫に悩まされた一方、こうした自然地形を活用した城郭整備が行われており、これまでの調査で15世紀代には堀切を有する中世城郭として利用されていたことが判っている。なかでも、慶長6～8年(1601～1603)にかけて初代延岡藩主高橋元種によって築かれた延岡城跡(県城跡)は「千人殺し石垣」に代表される本格的な石垣を有するもので、その威容は県内を代表する歴史的景観にもなっている。石垣の石材は、主に城跡の上流側に位置する南方地区で産出される阿蘇溶結凝灰岩の他、行縢山産の花崗斑岩、愛宕山産の砂岩が多く用いられている。現在、城門や水堀は破却や埋め立て等によって往時の景観を知り得る状況はないが、絵図史料調査や発掘等によって歴史的変遷の解明が徐々に進みつつある。

調査地は、本城と西ノ丸の間に広がる武家屋敷群の一角にあたる。内藤家文書にみられる絵図史料によると、武家屋敷地若しくは道路として描かれており、城山公園北駐車場(内堀跡)からカルチャーブラザのべおか方面(西)に延びる内堀の隣接地にもあたる。大正期～戦前の写真資料によると水田地帯として利用されており、明治維新後に管理されなくなった堀割の痕跡を裏付けるような低地となっていたようである。昭和17年(1942)3月12日、杉林・竹林を含む一帯の7332m<sup>2</sup>を延岡青年学校建設用地として内藤家より寄付を受けたが戦局悪化により事業は中断。戦後は学制改革により学校建設の必要性が無くなつたため、昭和23～31年(1948～1956)にかけて戦災復興事業に



Fig.33 延岡城内遺跡(第16次)位置図 (1/15,000)



Fig.34 延岡城内遺跡(第16次)調査区配置図 (1/2,500)



PL.53 延岡城内遺跡(第16次) 調査前

伴う市営住宅55戸（城山住宅）が建設されており、周辺には当時の住宅が一部残存している。

## (2) 調査の概要

調査地は標高約5.5mの地点で、調査地北側に予想される内堀跡との位置関係を把握するため、南北方向に1カ所のトレンチを設定して実施した。

調査の結果、表土下は近代以降とみられる約110cmの客土層が数層にわたって確認され、8層・11層から紅渓石片が一括廃棄の状態で出土した。これは、延岡城下町遺跡（第1次）調査で出土した紅渓石片と同類で、硯石加工の未製品や加工時の残片とみられる。この他、客土最下層直下には暗青灰褐色粘質土を検出し、木片等の有機物が多数見受けられ内堀構とも考えられたが、標高約4.1mと堀底にしては高位であることから、現段階では内堀に近い低位部と判断するのが適当と思われる。

## (3) 検出遺構

なし

## (4) 出土遺物

客土中から近世～近代の陶磁器類と紅渓石片、第10層から木桶等の木製品等が出土した。詳細事項は別表に記載しておく。

## (5) まとめ

今回の確認調査は小面積であったため詳細な検討には至らなかったが、延岡城の内堀隣接地にあたり、客土など土層堆積状況を把握することができた。近年は延岡城跡周辺の建て替え事業が見受けられる為、今後も引き続き周辺地域の開発に留意する必要がある。

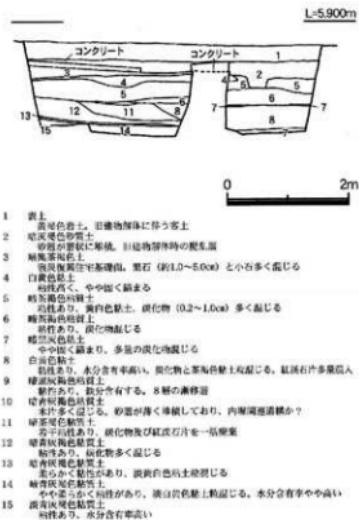


Fig.35 延岡城内遺跡(第16次) 土層断面図 (1/80)



PL.54 延岡城内遺跡(第16次) 調査状況



PL.55 延岡城内遺跡(第16次) 土層断面 (西壁)

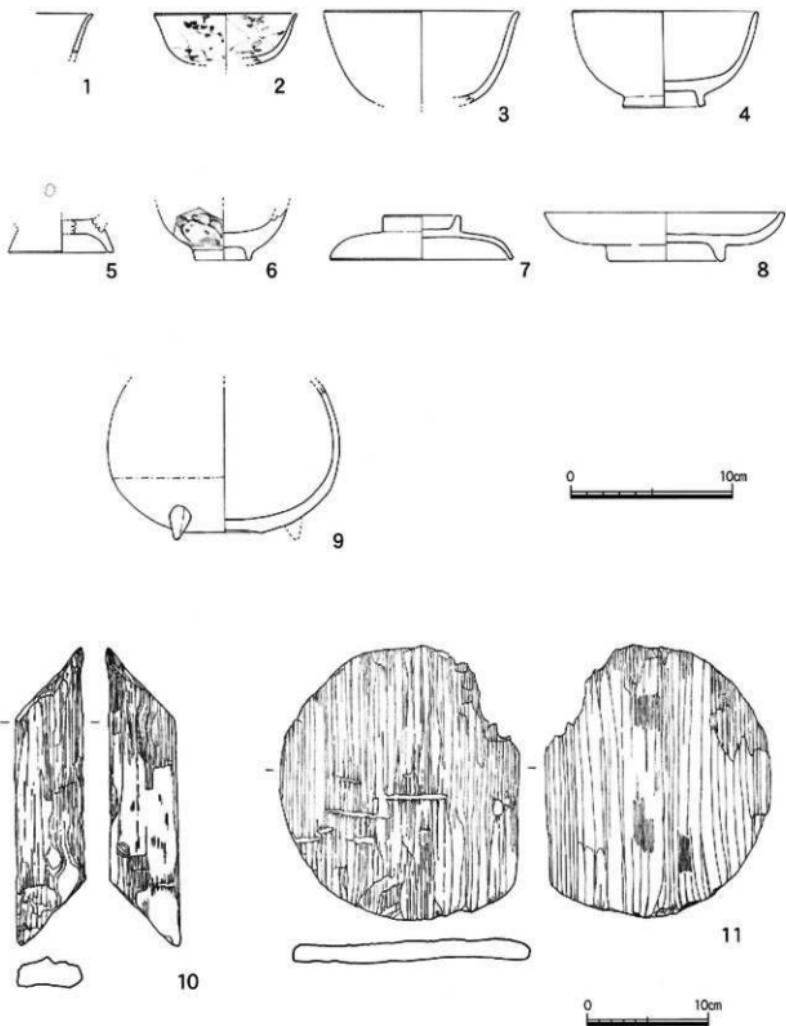


Fig.36 延岡城内遺跡(第16次)出土遺物実測図1 (1/3・1/4)

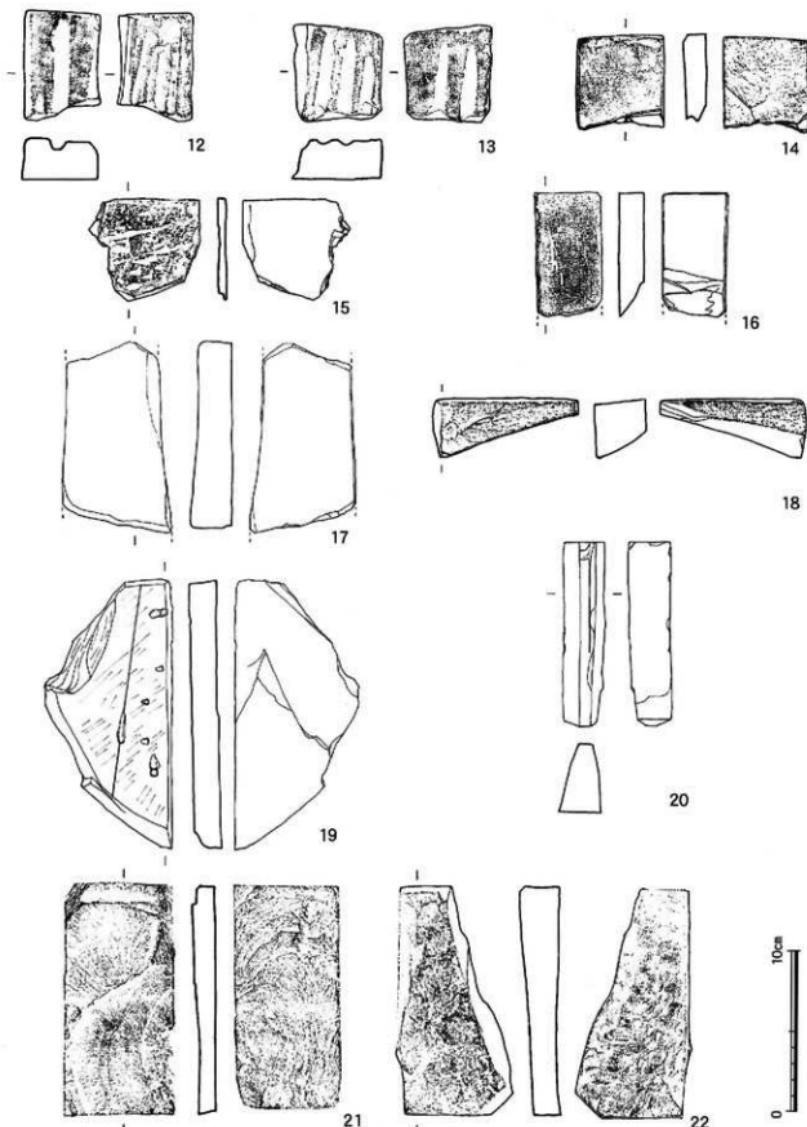
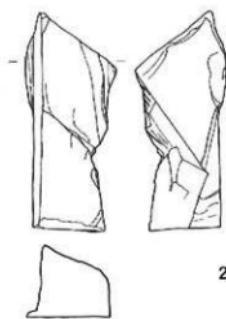
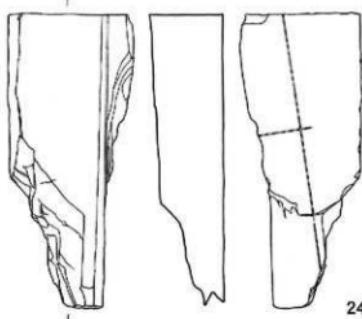


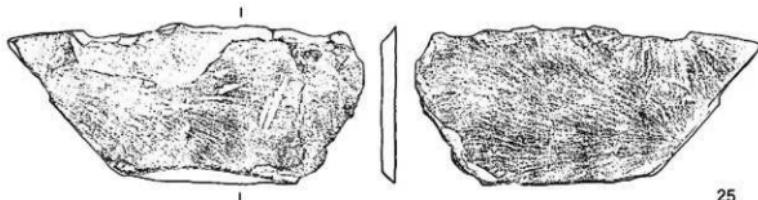
Fig.37 延岡城内遺跡(第16次)出土遺物実測図 2 (1/3)



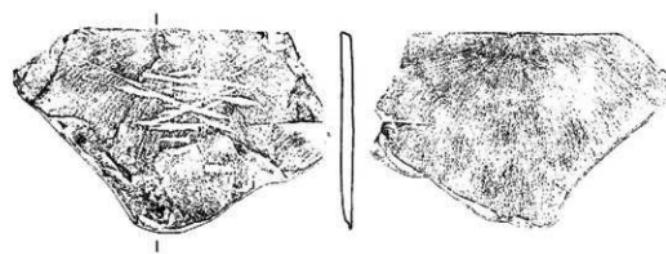
23



24



25



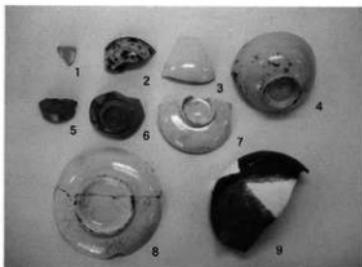
26



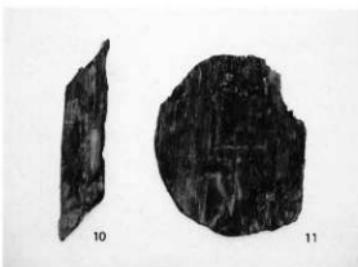
Fig.38 延岡城内遺跡(第16次)出土遺物実測図 3 (1/3)

| 通告号 | 種別  | 器種     | 出土地点  | 層位    | 測量   |      |      | 形態及び文様                        | 備考                        |
|-----|-----|--------|-------|-------|------|------|------|-------------------------------|---------------------------|
|     |     |        |       |       | 口径・長 | 底径・幅 | 高さ・厚 |                               |                           |
| 1   | 陶   | 盃      | 東村廻   | 1トレンチ | 1.5  |      |      | 内外面貫入あり                       | 圓筒系 19世紀                  |
| 2   | 磁   | 盃      | 東村廻   | 1トレンチ | 3.5  | 8.5  |      | 内外面花文                         | 18~19世紀                   |
| 3   | 磁   | 盤      | 東村廻   | 1トレンチ | 1.5  |      |      | 内外面丸縁 口縁薄片干外反                 | 19世紀~                     |
| 4   | 磁   | 盤      | 東村廻   | 1トレンチ | 2.5  |      | 5.2  | 施文刻印 芥子印彌陀                    | 19世紀~                     |
| 5   | 陶   | 盤      | 東村廻   | 1トレンチ | 2.5  |      | 6.3  | 内外面貫入あり                       | 圓筒系                       |
| 6   | 陶   | 盤      | 東村廻   | 1トレンチ | 2.5  |      | 3.5  | 五輪毘沙門文                        | 肥腹 16世紀                   |
| 7   | 陶   | 盤      | 東村廻   | 1トレンチ | 3.5  | 11.2 |      | 内外面白色地 貫入あり                   | 19世紀~                     |
| 8   | 陶   | 盤      | 東村廻   | 1トレンチ | 2.5  | 14.8 | 7.4  | 内外面白色地 貫入あり                   | 19世紀~                     |
| 9   | 陶   | 土瓶     | 東村廻   | 1トレンチ | 3.5  |      | 4.5  | 内外面白色地 外面下部施跡                 | 19世紀~                     |
| 10  | 木製品 | 漆器漆器材? | 1トレンチ | 3箱    | 24.6 | 5.5  | 2.1  | 附らるな外側                        |                           |
| 11  | 木製品 | 木漆器    | 1トレンチ | 3箱    | 22.6 | 19.4 | 1.5  |                               |                           |
| 12  | 石製品 | 砾石     | 1トレンチ | 8~11層 | 6.7  | 4.4  | 2.7  | 表面に斜椎の刃2列、側面1列、裏面に刃の近い1列斜削面あり | 表面?受撃により<br>赤褐色に変色        |
| 13  | 石製品 | 砾石     | 1トレンチ | 8~11層 | 6.1  | 5.4  | 2.9  | 表面に斜椎の刃2列、側面1列、裏面に刃の近い1列斜削面あり | 表面?受撃により<br>赤褐色に変色        |
| 14  | 石製品 | 砾半製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 5.7  | 5.3  | 1.4  | 表面は黒らかに研磨<br>裏面は磨ね研磨          | 紅流域 長刀が中心部<br>で欠損したため作業中断 |
| 15  | 石製品 | 砾未製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 6.2  | 6.6  | 0.7  | 表面に近削刃火打具痕あり                  | 紅流域 狹竹                    |
| 16  | 石製品 | 砾半製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 7.5  | 4.0  | 5.0  | 右側面を滑らかに研磨<br>左側面は表面加工        | 紅流域 長刀頭火打具<br>のため作業中断     |
| 17  | 石製品 | 砾石     | 1トレンチ | 8~11層 | 11.9 | 6.3  | 2.1  | 長辺側面以外の面に擦痕あり                 | 砂岩                        |
| 18  | 石製品 | 砾半製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 3.7  | 9.1  | 3.2  | 右側のカット面あり 頭に研磨アリ              | 紅流域 砕片                    |
| 19  | 石製品 | 砾未製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 15.4 | 7.3  | 1.9  | 表面にカットラインの跡状痕あり<br>研削刀火打工具あり  | 紅流域 砕片                    |
| 20  | 石製品 | 砾未製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 11.2 | 2.6  | 4.0  | 裏面を滑らかに研磨<br>前面に研磨アリ          | 紅流域 砕片                    |
| 21  | 石製品 | 砾半製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 14.3 | 6.9  | 1.5  | 裏面に研磨アリ<br>前面の部分は厚くカット面あり     | 紅流域                       |
| 22  | 石製品 | 砾未製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 14.1 | 6.9  | 2.2  | 側面に石材カット痕<br>裏面に研磨アリ          | 紅流域<br>粗加工時の石材端部          |
| 23  | 石製品 | 砾未製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 13.3 | 5.5  | 4.2  | 側面に石材カット痕あり                   | 粗加工                       |
| 24  | 石製品 | 砾未製品   | 1トレンチ | 8~11層 |      |      |      | 裏面にカットラインの跡状痕あり               | 紅流域                       |
| 25  | 石製品 | 砾未製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 9.4  | 21.4 | 1.0  | 表面に研磨刀火打工具痕<br>2個辺に石材カット痕あり   | 紅流域<br>薄手で研磨加工不可          |
| 26  | 石製品 | 砾未製品   | 1トレンチ | 8~11層 | 12.1 | 18.8 | 0.8  | 表面に研磨刀火打工具痕あり                 | 紅流域<br>薄手で研磨加工不可          |

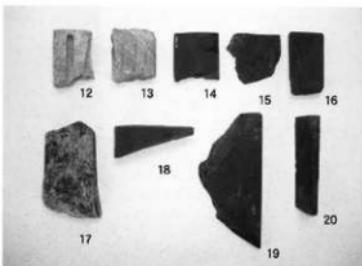
第6表 延岡城内遺跡(第16次)出土遺物観察表



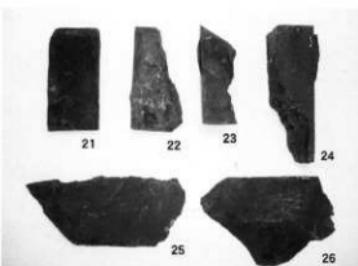
PL-56 延岡城内遺跡(第16次) 出土遺物 1



PL-57 延岡城内遺跡(第16次) 出土遺物 2



PL-58 延岡城内遺跡(第16次) 出土遺物 3



PL-59 延岡城内遺跡(第16次) 出土遺物 4

## 9. 行勝町茂須野地点

所在 地 延岡市行勝町650番183  
調査原因 携帯電話無線基地局建設  
調査期間 2007年02月19日～2007年03月02日

調査面積 14.6m<sup>2</sup>  
担当者 山田  
処置 慎重工事

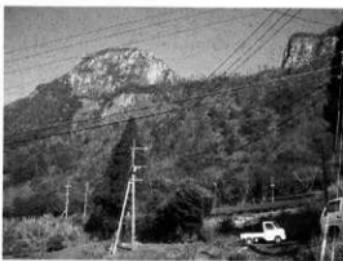
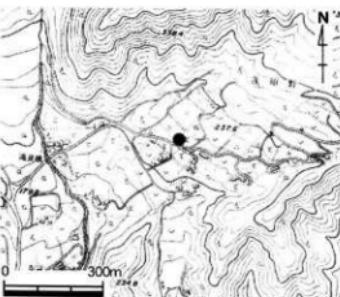
### (1) 位置と環境

行勝山は花崗斑岩の岩塊で構成され、南側縁辺には東西約3km、最大落差約350m以上にわたって断崖絶壁を有する特異な地形になっている。これは、当山北方向に位置する大崩山が隆起した際に周囲の割れ目から花崗斑岩の岩脈が隆起してできた山々の一つで、地質学上リングダイク（環状岩脈）といわれ、可愛岳、比叡山、矢筈岳、丹助岳も同系統の山として連なっている。当山は標高831mを測り、その中央部には高さ72mの行勝の滝が形成され、一帯は県指定名勝の景勝地として親しまれている。当山を端に流れる行勝川は南側に向かって緩やかな谷地形を形成し、河岸段丘上には縄文～古墳時代の遺跡が随所に見受けられる。行勝山山麓では、昭和28年頃より地区所有の山林開発を行ったため茂須野開拓団が結成されて広大な原野開発が行われているが、現在は利用されていない土地が多い。

### (2) 調査の概要

調査地は、眼前に行勝山を一望する標高約215mの地点に位置し、開拓団が造成した農地の一角にあるが、現在は雑草地となっている。

調査の結果、表土直下よりアカホヤ火山灰層の二次堆積層を検出した。これは、調査地が傾斜地にあり、且つ南側に面しているため火山灰の堆積する環境に適していたためと思われる。この層からは、花崗斑岩の岩塊が多く検出され、開拓時に表層部分にあったものを耕作土下の本層まで埋設したものと推定される。下層からAT層は確認されなかったが、その上下層（暗茶褐色粘質土）を確認した。



PL-60 行勝町茂須野地点 近景 (南東から)

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

なし

(5)まとめ

今回の調査は、行勝川上流域における初調査となつたが、遺構・遺物は確認されなかつた。しかしながら、周辺地域では、縄文時代の遺物も表探されていることから、引き続き周辺開発に留意する必要があらう。



PL.61 行勝町茂須野地点 調査状況1



PL.62 行勝町茂須野地点 調査状況2



PL.63 行勝町茂須野地点 土層断面 (東盤)

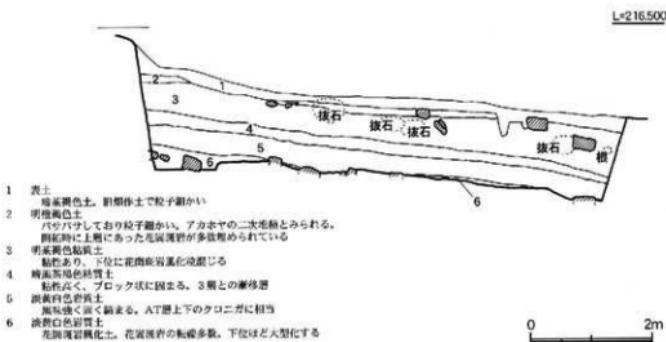


Fig.41 行勝町茂須野地点土層断面図 (1/80)

## 10. 上多々良遺跡（第5次）

所在地 延岡市岡富町・古川町  
調査原因 土地区画整理事業  
調査期間 2007年1月18日～2007年3月20日

調査面積 142.5m<sup>2</sup>  
担当者 高浦  
処置 工事実施

### （1）位置と環境

調査地である岡富・古川町は、市中心部から西へ1.3kmとほぼ市中心部に位置する五ヶ瀬川と高平山から派生する舌状丘陵に挟まれた平野部に展開する遺跡群である。ここは上多々良遺跡、上多々良箱式石棺群として埋蔵文化財包蔵地として認識されている。

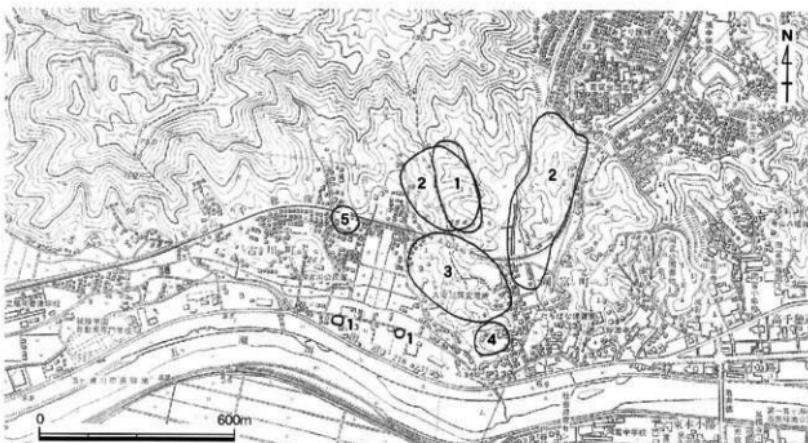
ここ岡富町・古川町は近年の大型化する台風による水害に悩まされてきた地域であるが、平成9年に区画整理事業が計画され、その後、都市計画決定を受けるのに並行して、試掘・確認・本調査を実施してきた。

これまでの調査では、平成9年の調査（上多々良遺跡第1次）により丘陵上に円墳1基が確認されている。また同年の水田部調査では古代の土師器の壊が出土し、プラントオパール分析では同時代から以下に下ると思われる層位から稻作（水田址）の可能性を示唆するデータを得ている。

また、岡富町・古川町を跨ぐ丘陵地では、平成10年の調査（上多々良箱式石棺群第1次）の確認調査を実施し、箱式石棺3基、円墳もしくはその可能性のあるもの6基を確認している。

平成16年には、箱式石棺群西側に展開する水田の一部の確認調査（上多々良遺跡第2次）を実施し、古墳時代の土師器が出土している。

平成17年には上多々良箱式石棺群の所在する丘陵の高千穂鉄道より北に登る丘陵上および平成16年同様の水田の一部を確認調査している。本事業範囲最高頂位にあたる丘陵から江戸期の不明土壌



1.上多々良遺跡(第5次) 2.上多々良遺跡 3.上多々良箱式石棺群 4.延岡古墳群第34号墳(解除) 5.伊勢ノ前古墳(古川古墳)

Fig.42 上多々良遺跡(第5次)調査地位置図及び周辺遺跡分布図 (1/15,000)

1基が検出されているが、期待された古墳の確認はされなかった。また水田からも前回の調査により出土した土師器等の出土はなかった。しかし、プラントオパール分析では稻作（水田址）の可能性を示唆するデータが得られた。

以上のように、事業に先行する形で試掘・確認調査を実施しているが、平成17～19年にかけて確認調査結果を基に本調査も実施している。

平成17年には、上多々良遺跡第3次（上多々良古墳群）として、5世紀代の円墳3基を調査している。また18年には円墳3基、箱式石棺2基、本市で2例目となる古代の藏骨器埋納造構2基、本市で初となる墨書き土器（土師器）の出土等、成果のある調査を実施している。19年には（現在調査中）丘陵西側の水田を調査しており、その成果が期待されている。

今回の調査は、平成18年に実施した高千穂鉄道から北に延びる丘陵から東に派生する3本の尾根筋および、南西の218号線沿いに展開する水田の一部について、重機と人力により調査を実施した。

## (2) 調査の概要

丘陵上の調査は、東に延びる尾根筋で北からA・B・Cとした。調査方法はトレント法を採用したが、樹木等が林立していたため、調査地の状況に合わせ長短のトレントを複数設定した。

A地点は、平成17年度の確認調査により江戸期の不明土壌1基が検出された丘陵頂部から派生する尾根筋である。ここは尾根筋に沿って長いトレントを3本設定して調査を実施したが、造構・遺物共に確認することができなかった。

B地点は、今回の調査で一番長い尾根である。

植林により地形が起伏していたため、状況に合わせ4箇所にトレントを設定し調査を行ったが、造構・遺物共に確認することができなかった。

C地点は一番短い尾根である。ここは東への傾斜がきつく、また植林等により開墾が著しく段々畑の様相を呈していた。ここでは段々にトレントを4本設定したが、これまでと同様に造構・遺物を確認することができなかった。

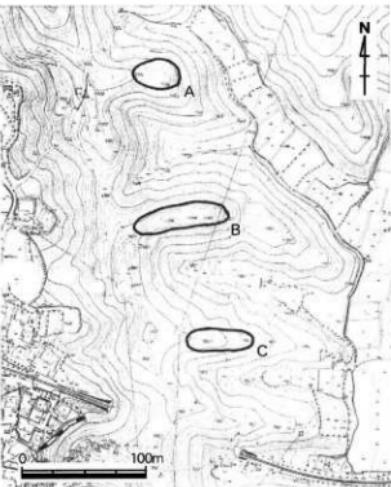


Fig.43 上多々良遺跡(第5次)1区調査区配置図 (1/4,000)

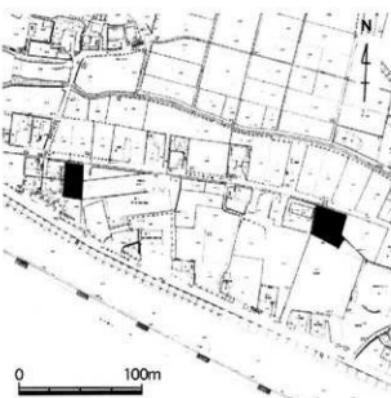


Fig.44 上多々良遺跡(第5次)2区調査区配置図 (1/4,000)

水田の調査は2箇所において実施した。古川町の水田は五ヶ瀬川側（南側）から丘陵側（北側）へ地形の傾斜が見られる。このことから、調査地はこれまで調査した水田部より一段高位の地点に位置する。

調査は2箇所ともにトレンチ法を採用した。その結果、現地表から約50cm程までは3期にわたる水田耕作層が確認できた。その下層においては明瞭な耕作層の確認はできなかった。実施したプラントオバール分析においても、下層における水田耕作痕を決定付ける結果は得られなかつた。また調査地において、五ヶ瀬川の氾濫層が確認されるかと期待したが、その痕跡も確認されなかつた。

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

なし

(5) まとめ

丘陵部の調査は、平成17年度の確認調査に引き続くもので、上多々良遺跡第3次調査で確認した古墳群の広がりを把握するものであった。結果としては、前回同様に古墳の確認はできず、上多々良第3次（上多々良古墳群）で確認した古墳が最北立地ということと考えている。今後は、東にある丘陵の確認調査が必要である。

また、水田地においては土師器の出土やプラントオバール分析の結果を踏まえ、慎重な対応が必要であろう。



PL64 上多々良遺跡(第5次) 調査地航空写真

## 11. 上多々良遺跡（第7次-1区）

所在地 延岡市岡富町798-4番地

調査面積 300.0m<sup>2</sup>

調査原因 区画整理事業

担当者 尾方

調査期間 2007.12.21

処置 慎重工事

### (1) 位置と環境

当遺跡は市街地から西へ約2km、市の中心部を流れる五ヶ瀬川北岸に位置する。当地域は北から派生する舌状丘陵と、その丘陵に挟まれた平野部で構成される。岡富山と呼ばれ、古くから箱式石棺等が発見されている地区である。この地域に『岡富・古川地区区画整理事業』が計画され、それに伴い平成9年度から埋蔵文化財の試掘・確認・本調査が行われ、多くの遺構・遺物の検出・出土が続いている。

調査地点は、区画整理予定地内の北西に位置し、南に向かって張り出す短い舌状丘陵の頂部付近で標高約46mである。宅地開発により、丘陵の北側は削平をうけている。この丘陵の東隣の長く伸びる舌状丘陵の南端には、上多々良遺跡（第1次）調査の際に円墳が確認されている。

### (2) 調査の概要

調査は伐採後、重機を用いて行った。重機により尾根筋の表土を全て剥ぎ取り、その後、精査を行った。表土は20cm内外で、その下は地山（淡黄褐色粘質岩土）が検出された。遺構・遺物とも検出されなかった。

### (3) 検出遺構

なし

### (4) 出土遺物

なし

### (5) まとめ

遺構・遺物とも検出されなかった。第7次-2区調査で東隣の丘陵を調査する予定である。



Fig.45 上多々良遺跡(第7次-1区)位置図 (1/15,000)



Fig.46 上多々良遺跡(第7次-1区)調査区配置図 (1/2,500)



PL.65 上多々良遺跡(第7次-1区)近景 (東から)

## 12. 藤の木第1地点

所在地 延岡市北方町藤の木西1103-1番地  
調査原因 携帯電話無線基地局  
調査期間 2007年6月26~2007年6月29

調査面積 10.0m<sup>2</sup>  
担当者 小野  
処置 開発中止

### (1) 位置と環境

曾木川に向かって北方向に傾斜する台地上に位置する。曾木川との比高差は8m程度である。

約100m上流には、縄文時代及び中世の遺跡として知られている藤の木下水流遺跡がある。

同地区の対岸には、五輪塔などが祀られており、遺跡の所在が予想された。

### (2) 調査の概要

調査は、建設予定地に2ヶ所のトレンチを設定して実施した。

表土を除去すると、この地域の地盤を形成している四万十帯の岩盤を検出した。

### (3) 検出遺構

なし

### (4) 出土遺物

なし

### (5)まとめ

今回の試掘調査では、遺構・遺物とともに検出されなかつたが、調査区以外の断面観察では、アカホヤ火山灰層の良好な堆積状況も確認している。

今後も、引き続き諸開発事業に留意する必要がある。



Fig.47 藤の木第1地点位置図 (1/5,000)



PL.66 藤の木第1地点 調査風景 (東から)



PL.67 藤の木第1地点 調査状況 (西から)

### 13. 藤の木第2地点

所在地 延岡市北方町藤の木西1258-1259番地 調査面積 6.0m<sup>2</sup>  
調査原因 携帯電話無線基地局 担当者 小野  
調査期間 2007.10.01～2007.10.02 処置 工事実施

#### (1) 位置と環境

曾木川に向かって南方向に傾斜する台地上に位置する。曾木川との比高差は、9m程度である。

藤の木第1地点の対岸にあたり、小さな谷川を挟んだ東側には五輪塔が祀られている。上段には現在の墓がある。

藤の木第1地点が台風による崖崩れのため、工事予定地変更に伴う試掘調査である。



Fig.48 藤の木第2地点位置図 (1/5,000)

#### (2) 調査の概要

調査は、建設予定地に2ヶ所のトレンチを設定して実施した。

表土を除去すると、この地域の地盤を形成している四万十帯の岩盤を検出した。



PL.68 藤の木第2地点 調査風景 (北東から)

#### (3) 検出遺構

なし

#### (4) 出土遺物

なし

#### (5) まとめ

今回の試掘調査では、遺構・遺物とともに検出されなかったが、調査区以外の断面観察では、アカホヤ火山灰層の良好な堆積状況も確認している。

今後も、引き続き諸開発事業に留意する必要がある。



PL.69 藤の木第2地点 調査状況 (北東から)

## 14. 上崎地区遺跡（第9次）

所在地 延岡市北方町上崎辰958-1番地外  
調査原因 県営農地保全整備事業  
調査期間 20070510～20070510

調査面積 10.0m<sup>2</sup>  
担当者 小野  
処置 工事実施

### (1) 位置と環境

上崎台地上の南側傾斜部に位置する。五ヶ瀬川との比高差は、35m程である。同地区は平成10年度より農地侵食防止工事を目的とした県営農地保全整備事業が実施されている。



Fig.49 上崎地区遺跡(第9次)位置図(1/5,000)

### (2) 調査の概要

調査は、工事で影響の受ける部分を中心にトレチを設定して実施した。

確認の結果、一部でアカホヤ層が確認されたものの、遺構・遺物は検出されなかった。

### (3) 検出遺構

なし

### (4) 出土遺物

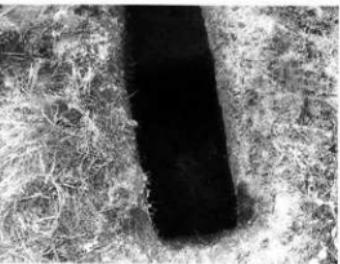
なし



PL.70 上崎地区遺跡(第9次) 調査風景（北東から）

### (5) まとめ

今回の確認調査では、遺構・遺物とともに検出されなかったが、調査区以外でも良好な地形が残っており、今後も引き続き諸開発事業に留意する必要がある。



PL.71 上崎地区遺跡(第9次) 調査状況（北西から）

## 15. 駄小屋遺跡（第1次）

所在地 延岡市北方町藏田辰  
調査原因 水兼農道建設  
調査期間 20080118～20080125

調査面積 30.0m<sup>2</sup>  
担当者 小野  
処置 本調査

### （1）位置と環境

五ヶ瀬川を挟んで、上崎地区遺跡の対岸の台地上に位置する。五ヶ瀬川との比高差は、70m程度である。

同地区は、過去石棺の出土地域として知られ、周辺の畠等では、石器や土器が採集されていた。

### （2）調査の概要

調査は、工事で影響の受ける部分を中心にトレチを設定して実施した。

確認の結果、一部でアカホヤ層が確認されたものの、遺構は検出されなかった。

出土遺物として、縄文時代の砂岩製の剥片や弥生土器片がある。

### （3）検出遺構

なし

### （4）出土遺物

縄文時代の石器片、弥生土器片

### （5）まとめ

今回の確認調査では、遺構は検出されなかったが、遺物包含層を確認した。調査区以外でも良好な地形が残っており、工事によって遺物包含層が影響を受けることから、来年度に本調査を行う予定である。



Fig.50 駄小屋遺跡(第1次)位置図 (1/5,000)



Pl.72 駄小屋遺跡(第1次) 調査風景 (東から)



Pl.73 駄小屋遺跡(第1次) 調査状況 (北西から)

## 16. 東原遺跡（第2次）

所在地 延岡市北方町川水流卯699-5  
調査原因 市道改良事業  
調査期間 2007年2月12日～2007年2月14日

調査面積 8.0m<sup>2</sup>  
担当者 小野  
処置 工事実施

### (1) 位置と環境

五ヶ瀬川に向かって南へ緩やかに傾斜する台地上に位置する。五ヶ瀬川との比高差は、50m程度である。

同地区は、以前より遺跡として周知されており、石器や土器が採集されている。

来年度に行う予定だった工事が、急遽今年度に実施されることが決まり、調査したものである。

### (2) 調査の概要

調査は、工事で影響の受ける部分を中心にトレチを設定して実施した。

確認の結果、一部でアカホヤ層が確認された。遺構は検出されなかったが、若干の土器・石器が出土した。

### (3) 検出遺構

なし

### (4) 出土遺物

縄文時代の石器片、弥生土器片

### (5) まとめ

今回の確認調査では、遺構は検出されなかったが、調査区以外でも良好な地形が残っており、今後も引き続き諸開発事業に留意する必要がある。

また、事業課と定期的な計画の確認を行う必要がある。

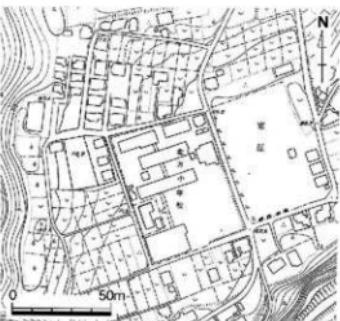


Fig.51 東原遺跡(第2次)位置図 (1/5,000)



PL.74 東原遺跡(第2次) 調査風景 (西から)



PL.75 東原遺跡(第2次) 調査状況 (東から)

## 17. 曽木原遺跡（3次・5次）

|      |                                     |      |                       |
|------|-------------------------------------|------|-----------------------|
| 所在地  | 延岡市北方町曾木子                           | 調査面積 | 1,000.0m <sup>2</sup> |
| 調査原因 | 個人農地改良                              | 担当者  | 小野                    |
| 調査期間 | 20051130~20060213、20070109~20070330 | 処置   | 工事実施                  |

### （1）位置と環境

金毘羅山（標高99.2m）から東へ緩やかにのびる丘陵上に位置する。同地区は以前より曾木原遺跡として周知されており、石器や土器が採集されている。

平成17年度に、台風による畠土の流出を防ぎ、農作業の効率化を目指すため、個人で数段畠を1枚にする工事が予定され、事前に確認調査を実施したところ遺構が検出された。このため、地主と協議を行い、平成17年度（第3次・500m<sup>2</sup>）と平成18年度（第5次・500m<sup>2</sup>）の2カ年にわたりて本調査を実施した。

### （2）調査の概要

調査は、工事で削平される部分について実施し、土坑2基、溝1基、多数の柱穴と歯を検出した。遺物は極端に少ない。アカホヤ層下にもトレンチを入れたが、一部疊の集中部を検出したものの、剥片が1点出土したのみであった。

### （3）検出遺構及び出土遺物

1号土坑は、ほぼ円形を呈し、上層から柱穴により影響を受けている。アカホヤ層上面で検出された。出土遺物はない。2号土坑は、歯により北側と東側を削平されている。ほぼ長楕円形を呈する。古墳時代後期の所産と思われる鉢が出土している。1号溝は調査区の南東側で検出し、一部は調査区外へと続く。出土遺物には、砂岩製のすり石以外には、焼けた礫が出土しているが、時期を決定できるものではない。柱穴や歯も同様で中より遺物の出土はない。歯は幅が30cmほどであり、小豆などの栽培を想起させるが、土壤分析等を行なっていないので詳細は不明である。

遺物としては、柔の木水流產黒曜石を利用したと思われる石鎌、砂岩製の扁平打製石斧、千枚岩製の石鎌が搅乱層中より出土している。

### （4）まとめ

今回の調査では、北方地区で初めて歯を検出した。生産遺構を検出する事例が多くないため、貴重な調査事例となった。今後、調査類例を比較検討して行きたい。

また、個人の農地改良に伴う調査は経済活動の一部を停止させてしまうため、出来るだけ調査予定を地主の要望に合わせたり、作業員として雇用するなど何らかの配慮を行ないながら、文化財保護との調整を図っていかなければならない。今回は、特別に2カ年度にわたっての調査にご協力をいただいた。地道な啓発活動も強化していきたい。

なお、本調査は何れも年度末の調査となつたため十分な整理期間を確保できず、一括報告が効率的であったために本年度の報告となつた。

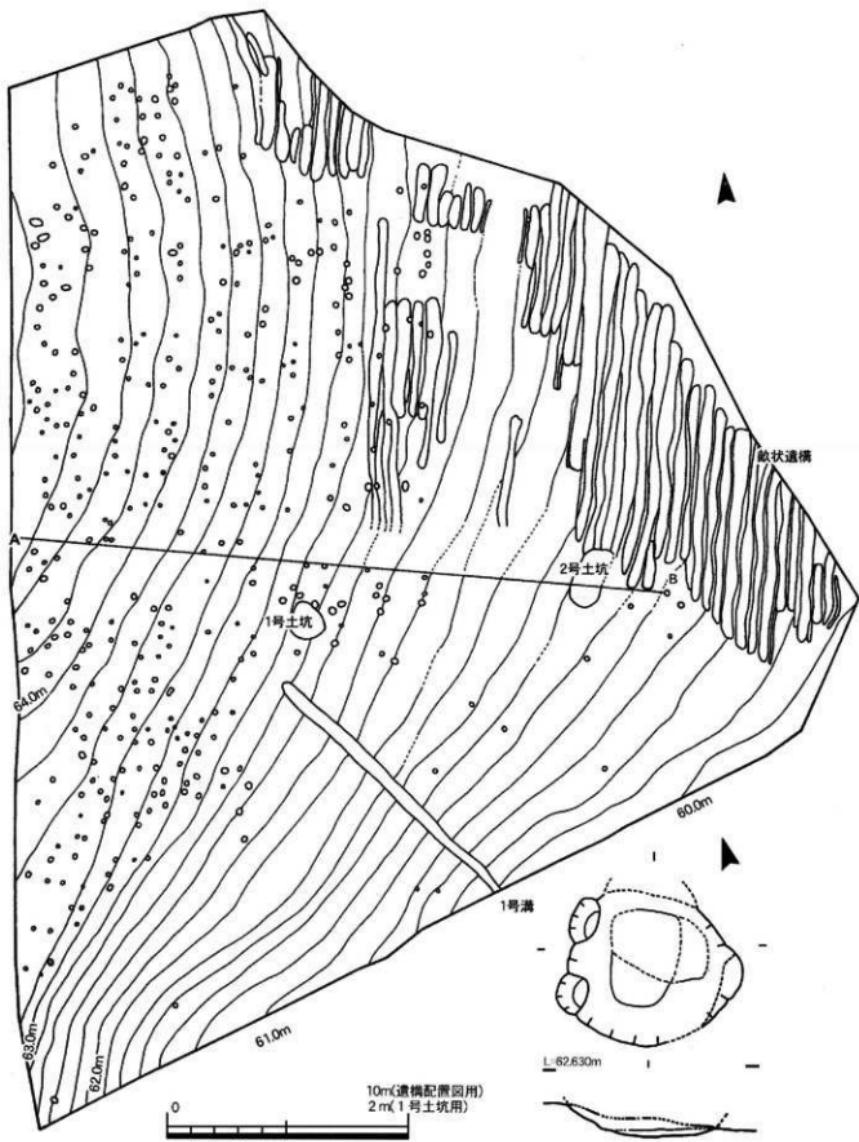


Fig.52 曽木原遺跡(第3・第5次)遺構配図(1/200)及び1号土坑実測図(1/40)

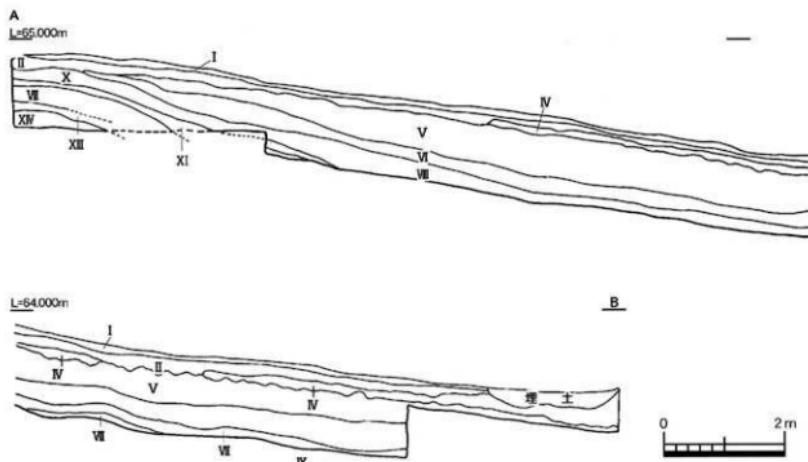


Fig.53 香木原遺跡(第3・第5次)土層断面図(1/40)

|       |                |      |             |
|-------|----------------|------|-------------|
| I層    | 表土             | X層   | 黒褐色土        |
| II層   | 耕作土            | XI層  | 暗黄褐色土 粘質    |
| III層  | 黑色土            | XII層 | 茶褐色土 砂質     |
| IV層   | アカホヤ火山灰層       | IV層  | 黄灰褐色土 (AT?) |
| V層    | 黒褐色土 粘質        | VII層 | 白斑ローム (B·B) |
| VI層   | 黄褐色土 粘質        |      |             |
| VII層  | 暗黄褐色土 粘質       |      |             |
| VIII層 | 茶褐色土 粘質        |      |             |
| IX層   | 暗茶褐色土 鉄分・砂利を含む |      |             |



PL.76 香木原遺跡(第3・第5次) 土層断面

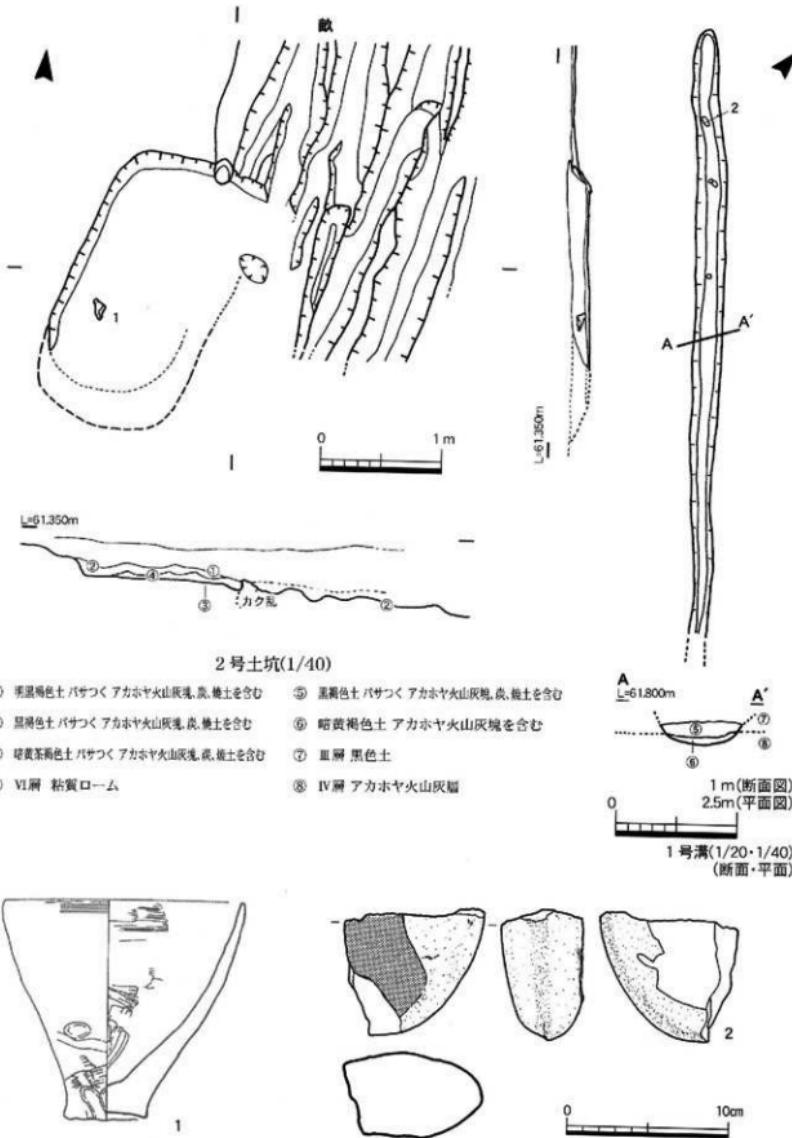


Fig.54 曽木原遺跡(第3・第5次)2号土坑(1/40)・1号溝(1/20・1/40)及び出土遺物実測図(1/3)

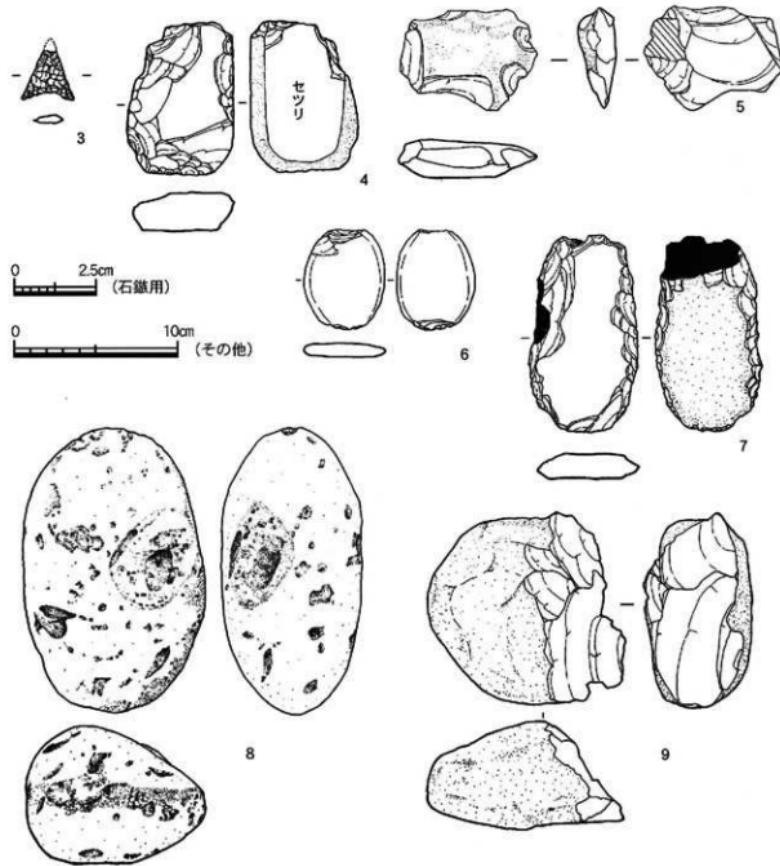


Fig.55 曽木原遺跡(第3・第5次)出土遺物実測図(1/3)

| 番号 | 出土地点 | 周   | 器種            | 文様等                              | 最高・最深(cm) | 直径・口径(cm) | 奥底(cm)-植土       | 重量(g)-塊成 |
|----|------|-----|---------------|----------------------------------|-----------|-----------|-----------------|----------|
| 1  | 2号土坑 |     | 鉢             | 外)黄土色、一部黒灰色<br>内)口縁付近黄土色 黒～底部黒灰色 | 13.5      | 14.4      | 1～3mmの<br>砂粒を含む | 良好       |
| 2  | 1号溝  |     | すり石(砂岩)       | 被熱、ホルンフェルス化                      | 7.8       | 8.4       | 5.1             | 110      |
| 3  |      | カク直 | 石墨(赤の木水波産黒麻石) | 尖端部欠損                            | 1.5       | 1.6       | 0.3             | 0.46     |
| 4  |      | 3 暗 | 礫岩(砂岩)        | 綈理有                              | 9.4       | 6.5       | 2.3             | 121      |
| 5  |      | V 細 | 剥片(砂岩)        | ホルンフェルス化                         | 6.1       | 8.3       | 2.3             | 119      |
| 6  |      | カク乱 | 石鍬(千枚岩)       | 打製石鍬                             | 6.0       | 4.8       | 0.8             | 35       |
| 7  |      | *   | 打製石斧(砂岩)      | 基部欠損                             | 11.7      | 6.3       | 1.5             | 151      |
| 8  |      | *   | 鍛打斧(河原溶結凝灰岩)  | 確認に打痕が見られる                       | 17.5      | 10.9      | 8.6             | 1330     |
| 9  |      | *   | 石核(チャート)      | 凹部分は自然剥離                         | 11.9      | 11.4      | 6.6             | 1010     |

第7表 曽木原遺跡(第3次・第5次)出土遺物観察表